

第3章 防府市の歴史文化

1. 防府市所在の文化財とその状況

(1) 文化財の捉え方

一般に「文化財」という用語を使用する場合は、国や地方公共団体により指定を受け、保護の措置が図られているものを指すものとして捉えられる傾向にあります。しかし文化財保護法に規定されている本来の「文化財」とは、指定等の措置がとられているか否かに関わらず、歴史上又は芸術上等の価値が高い、あるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産を指すものです。(「文化審議会文化財分科会企画調査会 報告書」平成19年10月30日を引用) 本構想における文化財の捉え方は後者の考え方に基づいて取り扱います。地域でこれまで大切にされてきたものの多くは「文化財」と同義のものとして捉えることができます。文化財は地域文化(今日の地域住民が共有している生活様式)を具体的に表わす存在といえますが、指定等の措置がとられている文化財は全体の中でわずかにすぎません。指定等がなされていない未指定の文化財の範囲は地域住民の捉え方次第ともいえます。さらに本構想では文化財を含む地域文化を成り立たせている周辺域の環境(自然・歴史・社会)を含めた時間・空間の諸要素の情報を総じて「歴史文化」として捉え、文化財がその場に存在することの背景を考察できるように取り組むこととします。

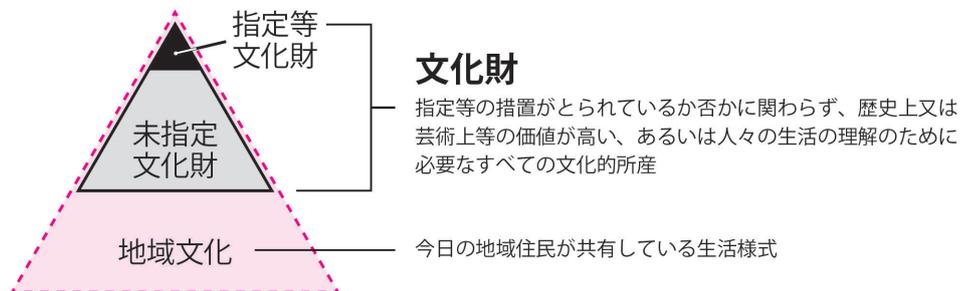


図32 文化財の捉え方

(2) 防府市所在の指定等文化財

文化財の種類は図33のように大別8種に分かれ、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群・文化財の保存技術・埋蔵文化財により構成されています。歴史的、芸術的、学術的に特に価値が高いと認められる文化財については、文化財の種類によって方法は異なりますが、指定・選択・選定・登録を受け、行政が関与して保護の措置が図られることになります。

防府市における文化財の指定は防府市文化財保護条例(昭和四十二年三月二十八日 条例第十五号)に次のように規定されています。

第一条 この条例は、文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号。以下「法」という。)第百八十二条第二項の規定に基づき、法又は山口県文化財保護条例(昭和四十年山口県条例第十号。以下「県条例」

◆ 1. 防府市所在の文化財とその状況

という。)の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で、本市の区域内に存するもののうち、重要なものについて、その保存及び活用を図り、もつて郷土の文化向上に資するとともに、我が国文化の進歩に貢献することを目的とする。

(昭五一条例一六・平一七条例一六・一部改正)

この規定に基づいて防府市教育委員会は文化財の種類に応じた調査をおこない、防府市指定文化財を増やし、着実に保護できるように取り組んでいます。

ここで文化財の概念の中核にある国・山口県・防府市によって指定・登録された指定等文化

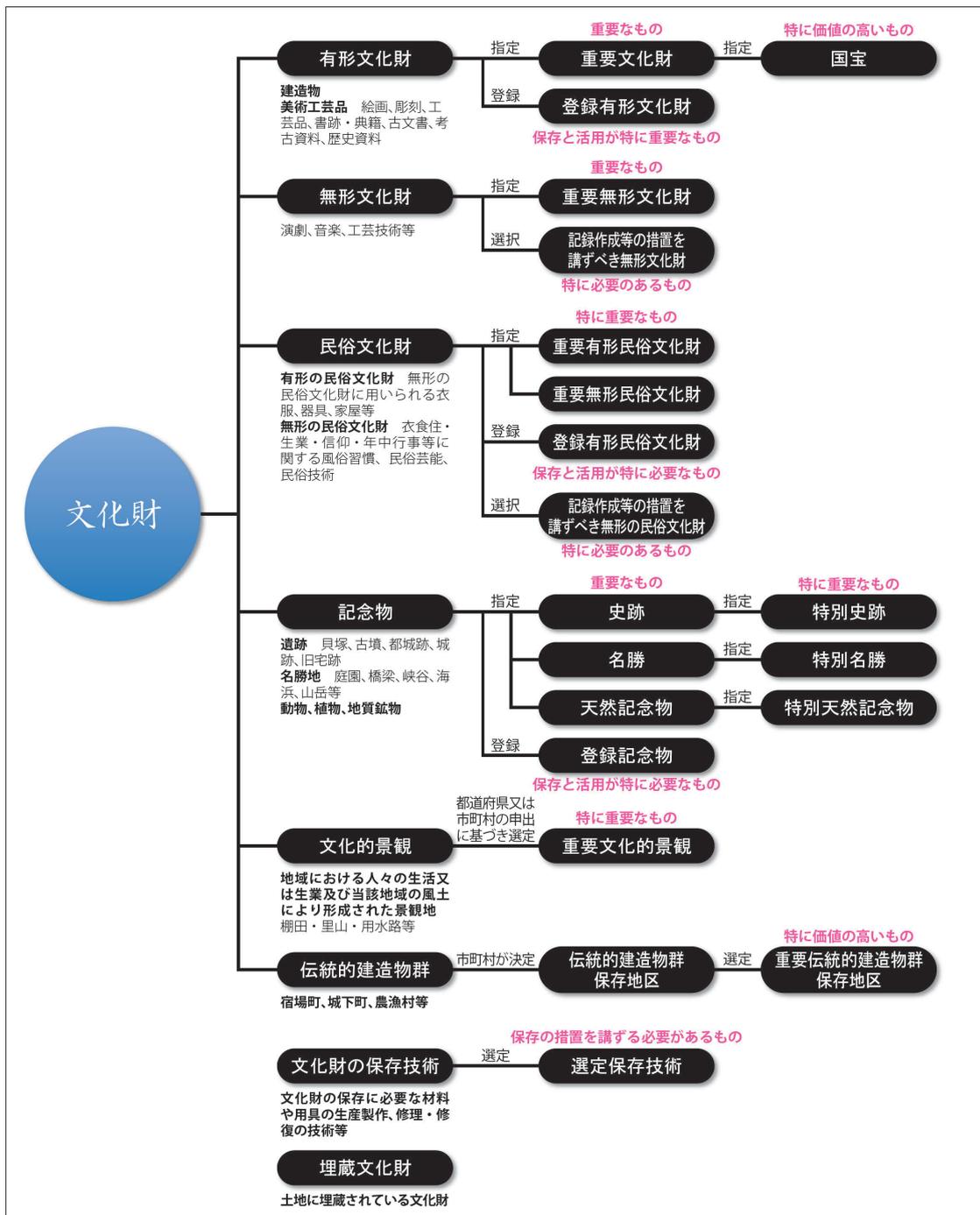


図 33 文化財体系図

財をみてみましょう。市内に所在する指定等文化財の件数を種別等で分類して集計したものが表1です。指定・選択・登録されたものの総計が156件、重要美術品が18件あり、とりわけ国指定文化財は山口県内に所在する総数の2割にあたる件数が防府市に所在します。さらに県内に所在する国宝10件のうち5件が防府市にあることは市民の誇りでもあります。

文化財の種別でみると総件数のおよそ7割は美術工芸品で占められていることが特徴といえるでしょう。古くから文化財として着目されてきた指定文化財の多くは寺社と旧大名家に伝来したものに集約され、防府天満宮・国分寺・阿弥陀寺・(公財)毛利報公会の4者が、市内に所在する指定等文化財の総件数のうち半数を所有しているという状況です。

表1 防府市の指定等文化財件数一覧

平成31年1月1日現在

分類	種別	国指定等			県指定		市指定	市内合計	重要美術品			
		名称	県内	市内	県内	市内	市内		種別	県内	市内	
有形文化財	建造物	重要文化財・国宝	38(3)	2(0)	34	3	4	9	絵画	1	0	
	美術工芸品		絵画	13(1)	3(1)	29	2	3	8	彫刻	2	0
			彫刻	19(0)	8(0)	63	3	24	35	工芸品	9	4
			工芸品	31(4)	13(2)	29	2	7	22	書跡	19	14
			書跡・典籍	11(2)	7(2)	18	4	2	13	考古資料	1	0
			古文書	12(0)	2(0)	8	4	0	6	合計	32	18
			考古資料	4(0)	1(0)	25	1	4	6			
			歴史資料	8(0)	1(0)	16	4	3	8			
無形文化財	芸能	重要無形文化財	0	0	1	0	0	0				
	工芸		1	0	2	0	0	0				
民俗文化財	有形	重要民俗文化財	11	3	8	0	2	5				
	無形		5	0	34	1	3	4				
記念物	史跡	史跡・特別史跡	42(0)	5(0)	31	2	7	14				
	名勝	名勝・特別名勝	12(0)	1(0)	5	0	0	1				
	天然記念物	天然記念物・特別天然記念物	44(3)	3(0)	52	4	4	11				
合計			251(13)	49(5)	355	30	63	142				
記録作成等の措置を講ずべき無形文化財として選択されたもの			3	0				0				
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として選択されたもの			10	1				1				
重要文化的景観			0	0				0				
重要伝統的建造物群保存地区			5	0				0				
選定保存技術			1	0				0				
登録有形文化財			101	13				13				
登録有形民俗文化財			1	0				0				
登録記念物			3	0				0				
市内の指定文化財および選定・登録件数総合計								156				

※()内は、国宝および特別史跡、特別名勝、特別天然記念物の件数(国指定等の件数に含む)

◆ 1. 防府市所在の文化財とその状況

表2 防府市所在の指定等文化財一覧

1. 国指定等文化財

国宝

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
1	絵画	紙本墨画淡彩 四季山水図	室町	昭和26年 6月 9日	毛利報公会
2	工芸品	鉄宝塔（水晶五輪塔共）	鎌倉	昭和29年 3月20日	阿 弥 陀 寺
3	工芸品	菊造腰刀 刀身無銘伝当麻	鎌倉	昭和27年 3月29日	毛利報公会
4	書跡	紙本墨書 古今和歌集卷第八（高野切本）	平安	昭和26年 6月 9日	〃
5	書跡	史記呂后本紀第九	平安	昭和27年11月22日	〃

重要文化財

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
6	建造物	国分寺金堂	江戸	平成元年 9月 2日	国 分 寺
7	建造物	旧毛利家本邸	大正	平成23年11月29日	毛利報公会
8	絵画	紙本著色 毛利元就像	桃山	昭和25年 8月29日	〃
9	絵画	紙本著色 松崎天神縁起 箱入 〃 追加指定	鎌倉	昭和25年 8月29日 平成24年 9月 6日	防府天満宮 〃
10	彫刻	木造 大日如来坐像	平安	昭和25年 8月29日	〃
11	彫刻	木造 獅子頭	鎌倉	平成 4年 6月22日	〃
12	彫刻	木造 四天王立像	平安	昭和25年 8月29日	国 分 寺
13	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	平安	昭和25年 8月29日	〃
14	彫刻	木造 日光菩薩立像 木造 月光菩薩立像	平安 平安	昭和25年 8月29日	〃
15	彫刻	木造 薬師如来坐像（金堂安置）	室町	平成11年 6月 7日	〃
16	彫刻	木造 重源坐像	鎌倉	昭和25年 8月29日	阿 弥 陀 寺
17	彫刻	木造 金剛力士立像	鎌倉	昭和31年 6月28日	〃
18	工芸品	太刀銘備前国□□（伝友成）	平安	昭和25年 8月29日	毛利報公会
19	工芸品	色々威腹巻 兜、大袖、喉輪付	室町	昭和39年 1月28日	〃
20	工芸品	紙本墨書 刀絵図	桃山	昭和39年 5月26日	〃
21	工芸品	能装束 紅萌葱地山道菊桐文片身替唐織	桃山	昭和45年 5月25日	〃
22	工芸品	紅地桐文散錦直垂	桃山	昭和46年 6月22日	〃
23	工芸品	金銅宝塔	平安	昭和25年 8月29日	防府天満宮
24	工芸品	浅黄糸威褌取鑑 兜付	南北朝	昭和28年11月14日	〃
25	工芸品	浅黄糸威鑑	南北朝	昭和34年 6月27日	〃
26	工芸品	梵鐘	鎌倉	昭和37年 2月 2日	〃
27	工芸品	紫韋威鑑	鎌倉	昭和47年 5月30日	〃
28	工芸品	松藤蒔絵文台硯箱	室町	昭和55年 6月 6日	〃
29	書跡	紙本墨書 阿弥陀寺田畠注文並免除状	鎌倉	昭和25年 8月29日	阿 弥 陀 寺
30	書跡	紺紙金泥 般若心経後奈良院宸翰	室町	昭和25年 8月29日	国 分 寺
31	書跡	紙本墨書 周防国阿弥陀寺田畠注文 （正治二年十月日）	鎌倉	昭和25年 8月29日	個 人
32	書跡	紙本墨書 東大寺領周防国宮野庄田畠等 立券文（建久六年九月日）	鎌倉	昭和25年 8月29日	個 人
33	書跡	紙本墨書 後深草天皇宸翰御消息 （十二月廿五日）	鎌倉	昭和25年 8月29日	毛利報公会
34	古文書	毛利家文書 〃 追加指定	平安～江戸	昭和48年 6月 6日 昭和59年 6月 6日	毛利報公会 〃
35	古文書	周防国一宮造替神殿宝物等目録	鎌倉	昭和51年 6月 5日	玉 祖 神 社
36	考古資料	鉄印 東大寺槌印	平安	昭和25年 8月29日	阿 弥 陀 寺
37	歴史資料	大内氏勘合貿易印等関係資料	室町	昭和54年 6月 6日	毛利報公会

重要民俗文化財

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
38	有形	江崎のまるきぶね	不詳	昭和32年 6月 3日	山 口 県
39	有形	製塩用具	江戸	昭和34年 5月 6日	防 府 市
		〃 追加指定		昭和40年 6月 9日	〃
40	有形	阿弥陀寺の湯屋	江戸	昭和47年 8月 3日	阿 弥 陀 寺

記念物

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
41	史跡	敷山城跡	南北朝	昭和10年 6月 7日	防 府 市
42	史跡	周防国衙跡	奈良	昭和12年 6月15日	防府市ほか
		〃 追加指定		平成16年 9月30日	〃
43	史跡	大日古墳	飛鳥	昭和23年 1月14日	大日地区
44	史跡	周防国分寺旧境内	奈良	昭和32年 7月10日	国 分 寺
45	史跡	萩往還	江戸	平成元年 9月22日	防府市ほか
		〃 追加指定		平成24年 9月19日	〃
46	名勝	毛利氏庭園	明治～大正	平成 8年 3月29日	毛利報公会
47	天然記念物	エヒメアヤメ自生南限地帯		大正14年10月 8日	防 府 市
48	天然記念物	向島タヌキ生息地		大正15年 2月24日	防府市ほか
49	天然記念物	黒柏鷄		昭和26年 6月 9日	地域を定めず指定

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

	分 類	名 称	時代	登録年月日	所 有 者
1	無形	玉祖神社の占手相撲		平成 9年12月 4日	占手神事保存会

登録有形文化財

	分 類	名 称	時代	登録年月日	所 有 者
1	建造物	防府天満宮 本殿・幣殿・拝殿	昭和	平成21年 1月 8日	防府天満宮
2	建造物	三田尻塩田旧越中屋釜屋煙突	明治～大正	平成24年 8月13日	防 府 市
3	建造物	春風楼	明治～大正	平成24年 8月13日	防府天満宮
4	建造物	山内家住宅主屋	昭和	平成26年 4月25日	個 人
5	建造物	山内家住宅蔵	昭和	平成26年 4月25日	個 人
6	建造物	山内家住宅男衆部屋	昭和	平成26年 4月25日	個 人
7	建造物	山内家住宅女衆部屋	昭和	平成26年 4月25日	個 人
8	建造物	山内家住宅納屋	昭和	平成26年 4月25日	個 人
9	建造物	山内家住宅門及び塀	昭和	平成26年 4月25日	個 人
10	建造物	清水家住宅主屋	明治	平成27年 3月26日	個 人
11	建造物	白石家住宅主屋	大正	平成30年11月 2日	個 人
12	建造物	白石家住宅呉服蔵	明治	平成30年11月 2日	個 人
13	建造物	白石家住宅道具蔵及び食物蔵	明治	平成30年11月 2日	個 人

第3章 防府市の歴史文化

◆ 1. 防府市所在の文化財とその状況

2. 県指定文化財

有形文化財

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
1	建造物	周防国分寺楼門	桃山	昭和41年 6月10日	国 分 寺
2	建造物	護国寺笠塔婆	鎌倉	昭和51年11月24日	護 国 寺
3	建造物	防府天満宮の石大鳥居	江戸	昭和59年11月 2日	防府天満宮
4	絵画	絹本着色 熊野本地仏曼荼羅図	鎌倉～南北朝	平成15年12月19日	国 分 寺
5	絵画	絹本着色 仏涅槃図	室町	平成30年 3月 2日	〃
6	彫刻	木造 阿弥陀如来立像	鎌倉	昭和41年 6月10日	〃
7	彫刻	金銅 毘盧舍那仏坐像（寺伝大日如来像）	高麗	平成元年 3月28日	〃
8	彫刻	金銅 誕生釈迦仏立像	新羅	平成元年 3月28日	〃
9	工芸品	漆絵枝菊椀（大内椀）	室町	昭和59年 4月10日	毛利報公会
10	工芸品	金装飾太刀拵	江戸	昭和59年 4月10日	〃
11	典籍	里村紹巴筆連歌学書（毛利家伝来本）	桃山	昭和59年 4月10日	〃
12	典籍	幸若流舞之本（毛利吉就所持本）	室町	昭和59年 4月10日	〃
13	典籍	毛利元就詠草連歌	室町	昭和59年 4月10日	〃
14	典籍	版本 大般若経	鎌倉	平成 6年 1月25日	阿 弥 陀 寺
15	古文書	阿弥陀寺文書	鎌倉～江戸	昭和46年 3月30日	〃
16	古文書	周防国分寺文書	室町～明治	昭和53年 3月31日	国 分 寺
		〃 追加指定		平成 2年 3月30日	〃
17	古文書	防府天満宮文書	鎌倉～明治	昭和53年12月22日	防府天満宮
		〃 追加指定		昭和60年 4月16日	〃
18	古文書	兄部家文書	鎌倉～明治	昭和56年 3月24日	個 人
19	考古資料	井上山（桑山西峯）経塚出土品	平安～鎌倉	平成元年10月24日	防府市、個人
20	歴史資料	毛利元就関係資料	室町	昭和59年 4月10日	毛利報公会
21	歴史資料	毛利隆元関係資料	室町	昭和59年 4月10日	〃
22	歴史資料	毛利輝元関係資料	桃山	昭和59年 4月10日	〃
23	歴史資料	毛利秀就関係資料	江戸	昭和59年 4月10日	〃

民俗文化財

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
24	無形	玉祖神社の占手神事		昭和51年11月24日	占手神事保存会

記念物

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
25	史跡	野村望東尼終焉の宅跡及び墓	江戸	昭和41年 6月10日	防府市、個人
26	史跡	防府天満宮大専坊跡	江戸	昭和62年10月27日	防府天満宮
27	天然記念物	防府市中浦の緑色片岩		昭和45年 2月27日	防 府 市
28	天然記念物	老松神社のクスノキ		昭和52年11月11日	老 松 神 社
29	天然記念物	若月家の臥竜松		平成 2年 3月30日	個 人
30	天然記念物	防府市向島の寒桜		平成23年 4月 8日	防 府 市

3. 市指定文化財

有形文化財

	分類	名称	時代	指定年月日	所有者
1	建造物	阿弥陀寺仁王門	江戸	昭和44年 3月31日	阿弥陀寺
2	建造物	枅築らんかん橋	江戸	昭和46年 3月27日	防府市
3	建造物	宇佐八幡宮本殿 宇佐八幡宮拜殿	江戸 江戸	平成15年 8月29日	宇佐八幡宮
4	建造物	旧毛利家本邸祖霊社	大正	平成25年 3月11日	毛利報公会
5	絵画	麻布着色 地藏十王図	朝鮮王朝	平成11年 8月 6日	国分寺
6	絵画	紙本着色 毛利元就坐像	江戸	平成20年 9月29日	太平寺
7	絵画	紙本墨画淡彩 防府真景図	江戸	平成25年 3月11日	阿弥陀寺
8	彫刻	木造 不動明王立像 木造 毘沙門天立像	平安～鎌倉 平安～鎌倉	昭和42年 9月 1日	極楽寺
9	彫刻	木造 不動明王立像	平安	昭和43年 3月28日	国分寺
10	彫刻	木造 毘沙門天立像	平安	昭和46年 3月27日	〃
11	彫刻	木造 釈迦如来坐像	鎌倉～南北朝	昭和46年 3月27日	徳性寺
12	彫刻	木造 十一面観世音菩薩立像	平安～鎌倉	昭和56年 3月10日	極楽寺
13	彫刻	木造 地藏菩薩立像	平安	昭和56年 3月10日	〃
14	彫刻	木造 人丸大明神坐像	江戸	昭和57年 4月 5日	個人
15	彫刻	木造 阿難尊者立像 木造 迦葉尊者立像	江戸 江戸	昭和57年 4月 5日	極楽寺
16	彫刻	木造 子安観世音大士半跏像 木造 子安観世音菩薩半跏像	江戸 江戸	昭和57年 4月 5日	〃
17	彫刻	木造 観世音菩薩立像 木造 勢至菩薩立像	江戸 江戸	昭和57年 4月 5日	定念寺
18	彫刻	木造 子安観世音菩薩半跏像	江戸	昭和57年 4月 5日	普門寺
19	彫刻	木造 荒神立像	江戸	昭和57年 4月 5日	〃
20	彫刻	木造 十一面観世音菩薩坐像	江戸	昭和57年 4月 5日	阿弥陀寺
21	彫刻	石造 地藏菩薩半跏像	南北朝	昭和58年 4月 1日	〃
22	彫刻	木造 十一面観世音菩薩立像	鎌倉	昭和58年 4月 1日	〃
23	彫刻	木造 薬師如来坐像	平安	昭和59年11月 2日	中山自治会
24	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	平安	昭和62年 1月 5日	徳性寺
25	彫刻	熊野神社の獅子頭	室町	昭和62年 9月21日	熊野神社
26	彫刻	金銅 毘盧舍那仏坐像	高麗	平成元年 8月18日	満願寺
27	彫刻	金銅 菩薩形立像	高麗	平成元年 8月18日	〃
28	彫刻	木造 地藏菩薩坐像 木造 不動明王立像 木造 毘沙門天立像	平安 平安 平安	平成11年 8月 6日	天徳寺
29	彫刻	金銅 菩薩形立像	飛鳥	平成24年 5月 8日	防府市
30	彫刻	青銅 誕生釈迦仏立像	奈良	平成24年 5月 8日	〃
31	彫刻	木造 金剛力士立像	室町	平成26年 2月26日	国分寺
32	工芸品	太刀 無銘(伝信国)	室町	昭和44年 3月31日	玉祖神社
33	工芸品	太刀 銘 吉包	鎌倉	昭和44年 3月31日	〃
34	工芸品	天宮塔勧進帳軸	鎌倉	昭和44年12月13日	防府天満宮
35	工芸品	岩淵観音寺の梵鐘	江戸	昭和54年11月 1日	岩淵観音寺
36	工芸品	銅造鉢	室町	昭和56年 3月10日	防府天満宮
37	工芸品	大楽寺の梵鐘	江戸	昭和59年11月 2日	大楽寺
38	工芸品	切畑玉祖神社の梵鐘	江戸	昭和60年 4月 1日	(切畑)玉祖神社
39	書跡	妙法蓮華経八巻	平安	昭和54年 1月10日	防府天満宮
40	典籍	紙本墨書 源氏物語	江戸	昭和58年10月13日	〃

第3章 防府市の歴史文化

◆ 1. 防府市所在の文化財とその状況

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
41	考古資料	日輪寺経塚遺物	平安	昭和42年 9月 1日	個 人
42	考古資料	漢式五神五乳鏡	古墳	昭和44年12月23日	塩竈厳島神社
43	考古資料	キリシタン灯笼	江戸	昭和46年 3月27日	太 平 寺
44	考古資料	天神山古墳出土品	古墳	平成18年 3月28日	防府天満宮
45	歴史資料	越氏塾資料	江戸	昭和44年 3月31日	華浦小学校
46	歴史資料	周防国府跡出土木簡	奈良	平成20年 9月29日	防 府 市
47	歴史資料	防石鉄道蒸気機関車	大正～昭和	平成23年 5月13日	〃

民俗文化財

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
48	有形	藤井家旧蔵大工道具	江戸	平成18年 3月28日	個 人
49	有形	末田の窯業生産工房及び登窯	昭和～	平成28年 3月28日	個 人
50	無形	笑い講（神事）	鎌倉	昭和44年12月23日	笑 い 講 中
51	無形	民謡 浜子うた	江戸	昭和63年11月11日	浜子うた保存会
52	無形	宇佐八幡宮の腰輪踊	室町	平成 4年 9月 1日	腰輪踊保存会

記念物

	分類	名 称	時代	指定年月日	所 有 者
53	史跡	車塚古墳	古墳	昭和42年 9月 1日	天御中主神社
54	史跡	江泊瓦窯跡	平安	昭和43年 3月28日	個 人
55	史跡	鋳物師大師塚	古墳	昭和44年 3月31日	専 光 寺
56	史跡	向山三号古墳	古墳	昭和44年 3月31日	個 人
57	史跡	三田尻浜大会所跡	江戸	昭和46年 2月26日	防 府 市
58	史跡	岩畠古墳	古墳	平成23年 5月13日	個 人
59	史跡	入江家（入本屋宅）跡 伊藤井上両公上陸遺蹟	江戸	平成27年 3月20日	防 府 市
60	天然記念物	玉祖神社の社叢		昭和61年 3月 3日	玉 祖 神 社
61	天然記念物	岩淵のイブキ		昭和63年10月 5日	個 人
62	天然記念物	天徳寺のイチョウ		平成 8年 4月26日	天 徳 寺
63	天然記念物	阿弥陀寺のヤマモモ		平成 9年 9月 5日	阿 弥 陀 寺

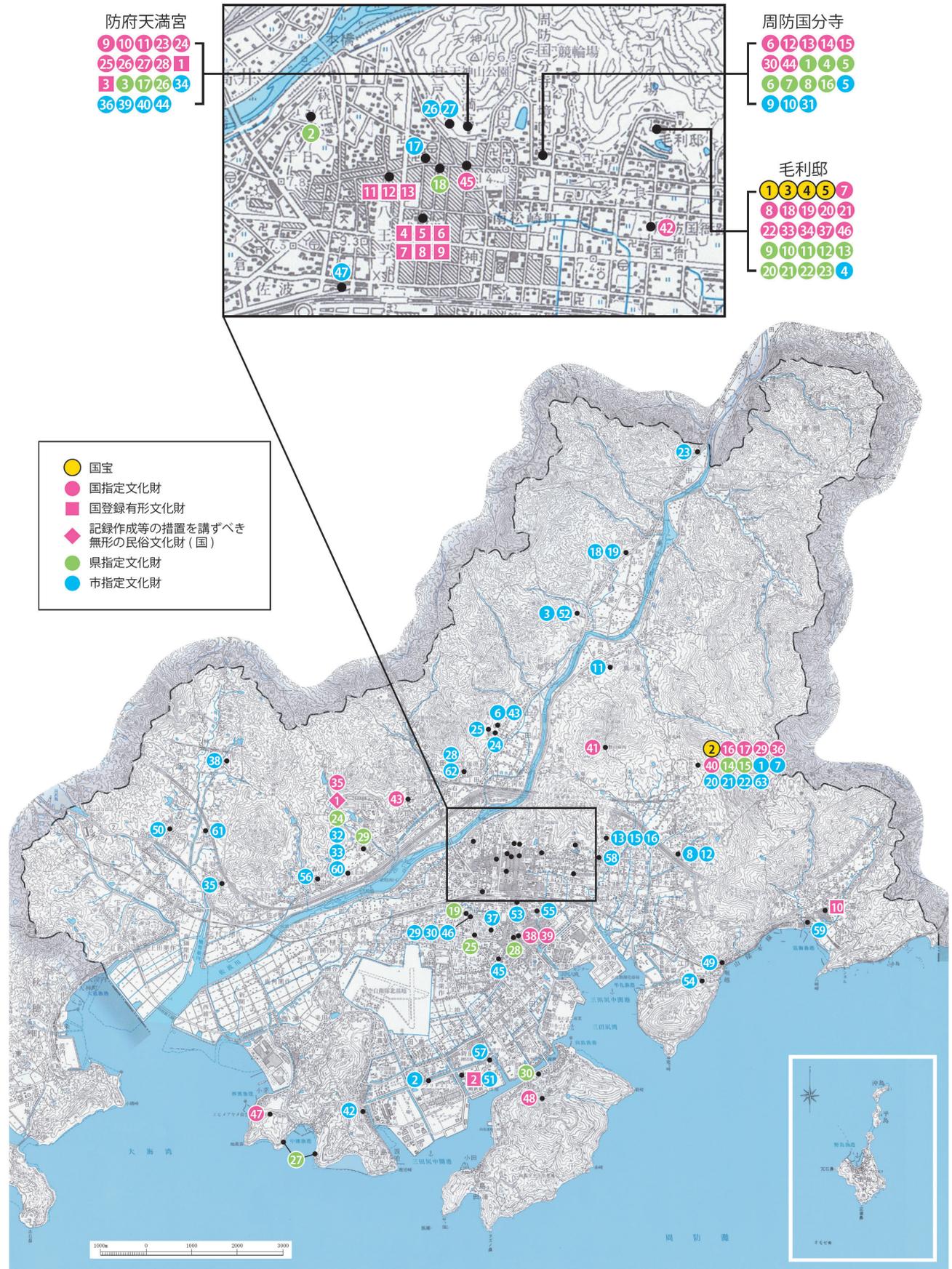


図 34 指定等文化財位置図

(3) 防府市における文化財保護の現状

防府市では数多くの文化財を保護してきましたが、これまでの活動の経歴や成果を振り返り、現状の文化財保護のあり方を見据えたいと思います。

①文化財の指定・登録等の推移

図 35 は防府市に所在する指定等文化財 156 件を、年代を軸にして、指定・登録等がなされた件数と文化財の種別がわかるようにまとめたものです。これにより今日までの指定等による文化財保護活動の推移や傾向を読み取ることができます。

昭和 25 年（1950 年）の文化財保護法の制定が日本の文化財行政や保護活動を本格化させた契機となりました。防府市においても、文化財保護法の制定後の 10 年程は旧国宝の見直し・再設定等による制度上の改正により有形文化財の重要文化財・国宝指定の件数が増加しました。その際に従前どおり据え置きとなった国指定の 5 件の記念物は年表上では突出して古い指定にみえます。大局的にみると大正 14 年（1925 年）から昭和 50 年（1975 年）くらいまでの半世紀の間は国指定の記念物と有形文化財（重要文化財・国宝）が保護措置の主体で、その内容は前項で触れた寺社・旧大名家伝来の美術工芸品が大勢を占めています。

昭和 40 年（1965 年）以降に地方公共団体の指定による保護措置がなされるようになりました。防府市においては、昭和 59 年（1984 年）をピークとして昭和 50 年代に山口県による指定が相次ぎます。事前の調査事業と関連して、昭和 53～56 年（1978～1981 年）にかけては古文書、昭和 59 年は毛利家関連資料、平成元年（1989 年）は仏像等の仏教関連資料というように指定内容にテーマ性を持つ時期があります。防府市による指定も初期の昭和 41～45 年（1966～1970 年）には仏像（有形文化財）・古墳（史跡）が積極的に指定されるなど保護の対象や内容にその時代の志向や傾向がみられます。指定年代ごとの件数を挙げてまとめてみると、平成の時代となった 1990 年以降の 25 年間で防府市所在の文化財が地方公共団体（県・市）の指定となった総件数は 22 件です。1990 年より前の同じ 25 年間での総計が 74 件であることと比較すれば、新規に指定するという保護措置は近年かなり少なくなっていることがわかります。

②指定等文化財の所在地

本構想において市内の文化財の所在地を表わす最も大きな区分を図 36 のように設定します。これは第 2 章でみた自然地形や歴史的な行政区分の境界に現在の都市計画区分を勘案したものです。範囲の大きさがある程度均衡を保てるように、松崎・三田尻、牟礼、右田、華城・新田、中関・西浦、富海、小野、大道、野島の 9 地域で構成します。市内の指定等文化財の所在位置は図 34 で 53 地点あることを表わしており、その分布状況を把握できます。この分布状況に指定・登録等の件数を合わせて 9 地域ごとに統計した数量グラフが図 37 です。これによると松崎・三田尻地域の件数の多さが、他地域を数量的に引き離れた状況となっています。理由は明白で、松崎・三田尻地域が古代からの政治拠点があった場所であり、伝統を引き継いだ文化財所有者である寺社等が集中して存在することにあります。一方で野島地域が 0 件、華城・新田地域が 1 件、富海地域が 2 件となっており、歴史的な土地利用のあり方を背景とするためか、指定等文化財の所在件数については地域偏差が認められます。さらに踏み込んで考えれば、指定等文化財の種別が、美術工芸品に数量的に偏重している現況を示す内容として受けとめることができます。

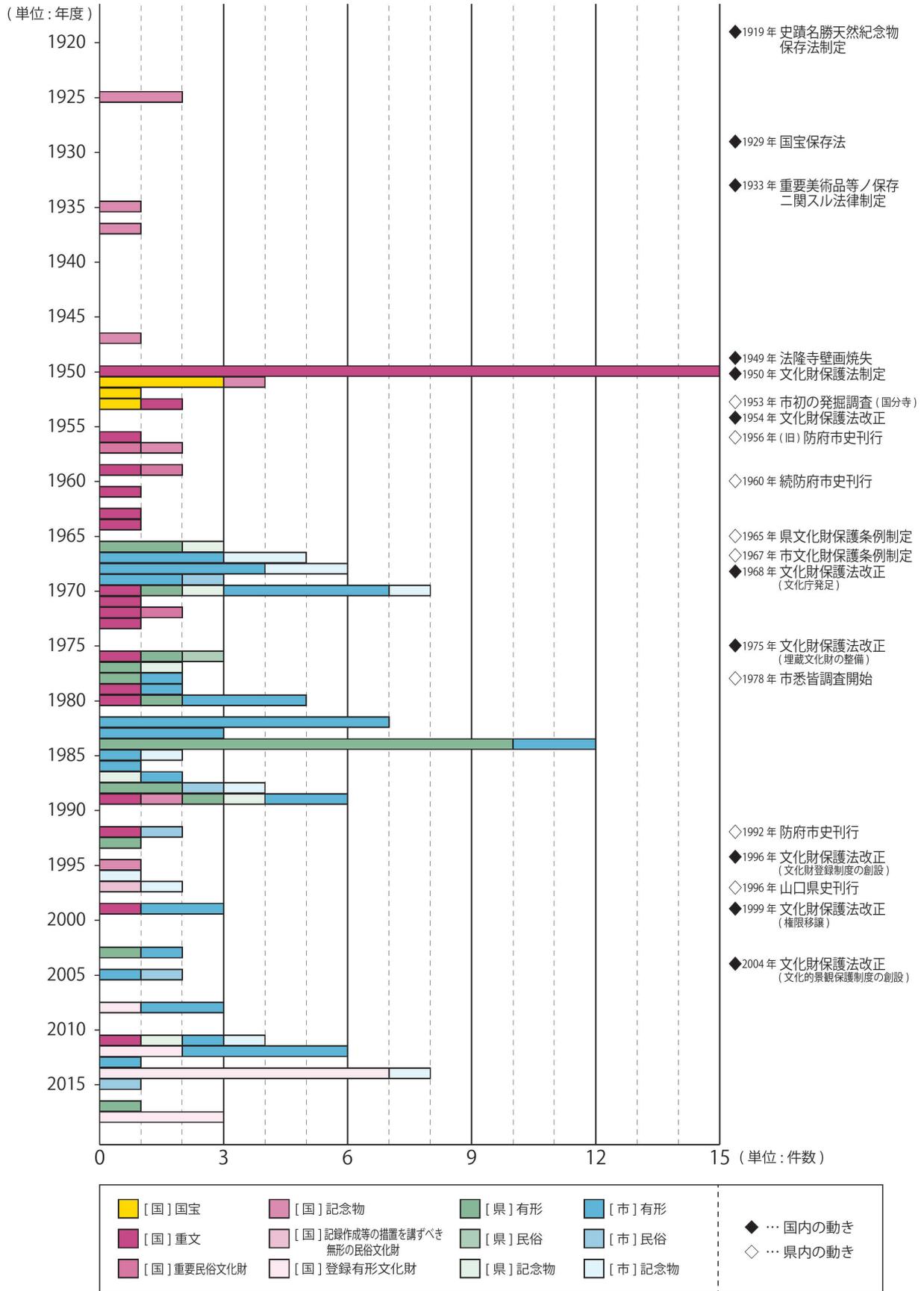


図 35 文化財の指定等の推移

③これまでの文化財調査

文化財の価値を見出すために大切な作業として文化財の「調査」があります。文化財の所在を把握し、価値とする内容を所見の記述・写真撮影・作図などの方法で記録する作業を主体としています。そして個々の情報を総体としてまとめ、文化財の種別のなかの各分野で学術的位置づけや評価がなされていきます。防府市教育委員会では長年、通常の調査業務として「有形文化財の悉皆調査」と「埋蔵文化財の発掘調査」に取り組んできました。

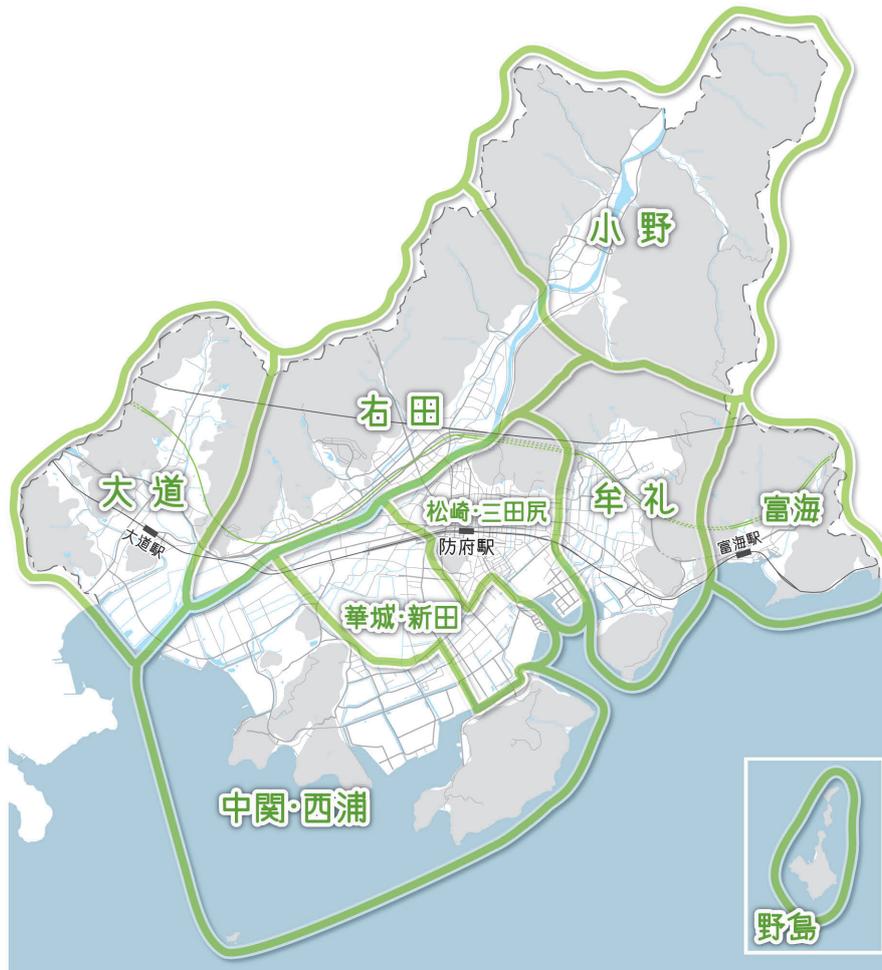


図 36 文化財所在地の区分

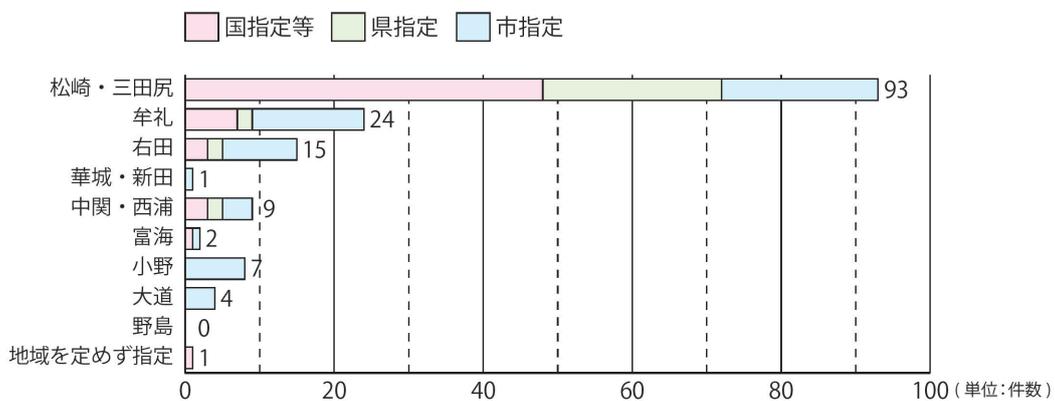


図 37 防府市の指定等文化財 区分別件数

有形文化財（美術工芸品）の悉皆調査

昭和53年（1978年）から、社寺に所在する有形文化財の悉皆調査を継続して実施しています。調査対象は市内120ヵ所あまりの神社・寺院・堂庵（集落で共同管理された宗教施設の古称）で、地域における信仰・交流の場で集積した広範な情報が、保存状態が良好な資料として残存することが見込まれ、それらを把握したうえで保護していく目的でおこなっています。市内中心部より損失の危機感が高い周縁部を先行して調査を進捗させた経緯があります。現在までに終了した成果は表3に示した通りで、82ヵ所の社寺等について、表記の種別の文化財を17,957件把握しました。その内の彫刻を中心とした17件が調査後に市指定有形文化財となったことが成果として挙げられます。社寺所有の未指定文化財の把握件数も図36の市内区分で比較すると、松崎・三田尻地域の所在数量が圧倒的多数を占めています。

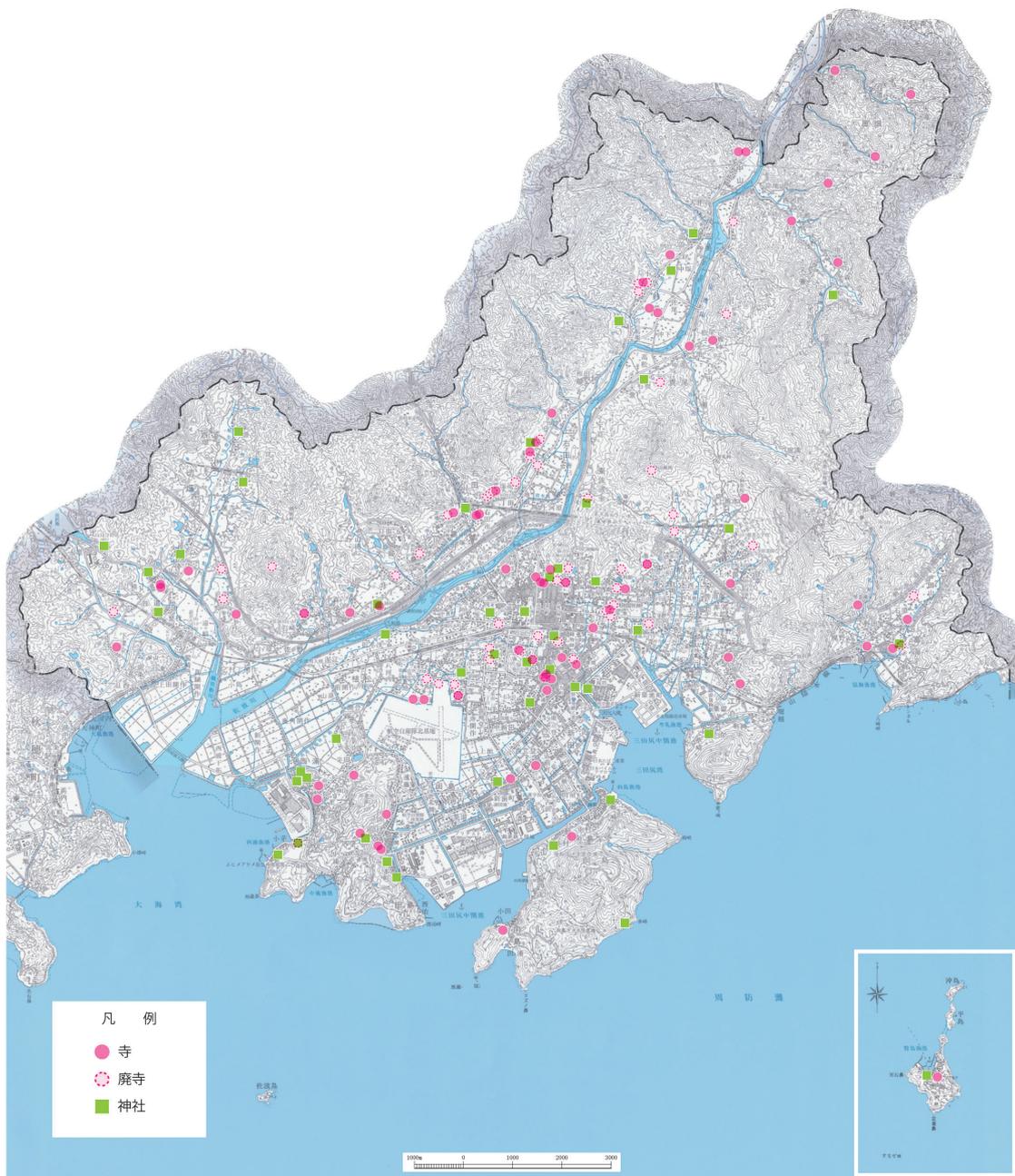


図38 防府市所在の社寺分布図

第3章 防府市の歴史文化

◆ 1. 防府市所在の文化財とその状況

表3 社寺悉皆調査で把握した文化財件数

地域名	社寺名	石造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	考古資料	歴史資料	合計	地域小計
松崎・三田尻	防府天満宮	262	110	21	231	74	964	687	30	109	2,488	12,755
	国分寺	156	191	77	253	41	7,779	1,567	0	203	10,267	
牟礼	法輪寺	0	5	2	1	0	0	0	0	0	8	1,421
	法蓮寺	2	0	7	4	0	1	0	0	0	14	
	極楽寺	2	13	38	10	0	0	0	0	0	63	
	田屋庵(廃庵)	0	0	3	4	0	3	0	0	0	10	
	験観寺(廃寺)	1	3	10	0	1	2	0	0	3	20	
	木部観音堂	3	2	10	5	0	1	0	0	2	23	
	江月庵	0	2	5	4	0	0	0	0	1	12	
	阿弥陀寺	36	51	50	61	97	675	156	0	50	1,176	
	春日神社	51	1	2	5	0	3	2	0	2	66	
	江泊神社	5	0	2	0	0	0	0	0	0	7	
右田	岸津神社	9	0	2	6	5	0	0	0	0	22	1,438
	本因寺	8	38	3	0	0	1	0	0	0	50	
	太平寺	12	24	33	8	1	8	1	0	15	102	
	海宝寺	2	1	17	3	2	0	0	0	1	26	
	徳性寺	10	9	8	7	2	45	0	0	2	83	
	熊野神社	65	5	18	21	1	10	0	0	11	131	
	乗円寺	2	20	1	10	12	63	16	0	2	126	
	真宗寺	0	8	4	5	2	28	39	0	2	88	
	天徳寺	36	59	40	4	7	302	4	0	1	453	
	剣神社	32	4	6	9	9	16	0	0	9	85	
華城・新田	神里会館	5	0	6	1	0	0	0	0	0	12	134
	玉祖神社	35	2	13	35	10	57	28	0	27	207	
	西光寺	2	1	3	2	0	0	0	0	0	8	
	明照寺	0	5	1	5	0	6	0	0	1	18	
	興禅院	5	0	9	10	0	19	0	0	6	49	
	妙玄寺	6	0	1	2	0	0	0	0	4	13	
	植松八幡宮	26	2	3	8	1	1	0	0	10	51	
	伊佐江薬師堂	3	1	11	1	0	0	0	0	2	18	
	安養寺	3	2	17	6	1	4	0	0	19	52	
	中関・西浦	塩竈厳島神社	28	1	5	8	0	11	0	4	4	
玉祖神社		19	1	4	9	2	2	0	0	16	53	
厳島神社		12	0	0	0	0	0	0	0	0	12	
普門寺		7	11	8	5	0	3	12	0	2	48	
善正寺		1	11	2	3	0	11	0	0	3	31	
玉林寺		6	3	33	4	0	21	2	0	22	91	
正善寺		2	11	1	3	2	0	0	0	0	19	
信行寺		0	6	1	2	0	2	0	0	0	11	
西政寺		2	14	0	6	6	26	388	0	29	471	
玉祖神社		22	2	4	4	2	35	49	0	12	130	
和立海神社		41	0	5	4	5	17	1	0	3	76	
金切神社		2	2	2	2	2	0	0	0	4	14	
鹿角神社		7	0	0	1	0	0	0	0	4	12	
金毘羅神社		5	0	1	0	0	0	0	0	0	6	
住吉神社		6	0	2	1	0	0	6	0	0	15	
西福寺	2	10	1	4	0	2	0	0	5	24		
富海	光福寺(廃寺)	0	0	7	2	0	0	0	0	0	9	202
	円通寺	1	8	1	2	3	5	0	0	1	21	
	国津姫神社	0	4	2	8	2	76	9	0	7	108	
	光増寺	0	5	1	2	0	0	0	0	0	8	
	瀧谷寺	3	5	9	13	1	0	0	0	0	31	
小野	海蔵寺	1	3	13	7	0	0	0	0	1	25	294
	中山薬師堂	0	0	10	4	0	0	0	0	1	15	
	徳龍寺	0	6	8	0	11	13	2	0	1	41	
	松ヶ谷神社	1	0	4	0	0	0	0	0	0	5	
	普門寺	2	0	19	4	0	9	1	0	1	36	
	青森神社	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	平薬師堂	1	0	3	0	0	0	0	0	1	5	
	宗音寺	1	2	4	2	0	2	0	0	0	11	
	鈴屋大日堂	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	
	宇佐八幡宮	10	3	9	14	3	0	0	0	2	41	
	宝善寺	4	0	5	1	0	1	0	0	0	11	
	樋渡地藏堂	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	
	麻生公会堂	0	0	7	4	0	0	0	0	3	14	
	赤山阿弥陀堂	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	
	西組公会堂	4	0	3	4	0	0	0	0	0	11	
	宝積寺	0	1	25	4	0	12	0	0	0	42	
	埴山神社	5	0	4	1	0	0	0	0	0	10	
	光明寺	2	6	3	2	0	4	2	0	0	19	
	真尾観音堂	2	2	4	0	0	1	0	0	0	9	
	普明寺	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4	
大蔵神社	5	1	0	0	0	0	0	0	1	7		
大道	宝蔵寺	3	2	13	1	4	3	0	0	3	29	639
	玉祖神社	22	1	1	8	2	0	0	0	7	41	
	小俣八幡宮	41	13	2	1	6	0	0	0	11	74	
	明善寺	1	7	2	1	2	4	0	0	0	17	
	厳島神社	20	0	0	0	0	0	0	0	0	20	
	諧光寺	2	26	1	3	25	5	1	0	0	63	
	繁枝神社	45	5	14	10	5	42	0	0	24	145	
	観音寺	31	3	21	4	22	90	61	0	7	239	
妙蓮寺	3	2	1	4	0	1	0	0	0	11		
総計(件数)		1,155	737	698	885	371	10,386	3,034	34	657	17,957	17,957

埋蔵文化財の発掘調査

防府市には現在 140 か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）があります。遺跡の時代は古代から近世・近代に至るまで、種別は官衙・集落・生産地跡・寺社・埋葬地・遺物散布地等があり、遺跡地図に登載された範囲が発掘調査の対象地となっています。

防府市教育委員会による初めての発掘調査は昭和 28 年（1953 年）に周防国分寺で実施されました。地方公共団体がおこなう発掘調査としては全国的にみてもかなり早い時期に実施された事例となります。その後、昭和 36 年（1961 年）から周防国府跡の発掘調査を開始して以来、50 年以上継続して市内遺跡の発掘調査に取り組んできました。平成 29 年（2017 年）までの総発掘調査件数は 557 件（うち山口県教育委員会調査 35 件）、遺跡から出てきた遺物はコンテナ総数で 8000 箱（防府市教育委員会保管分のみ）を超える情報量の蓄積があり、調査報告書で成果を公表しています。

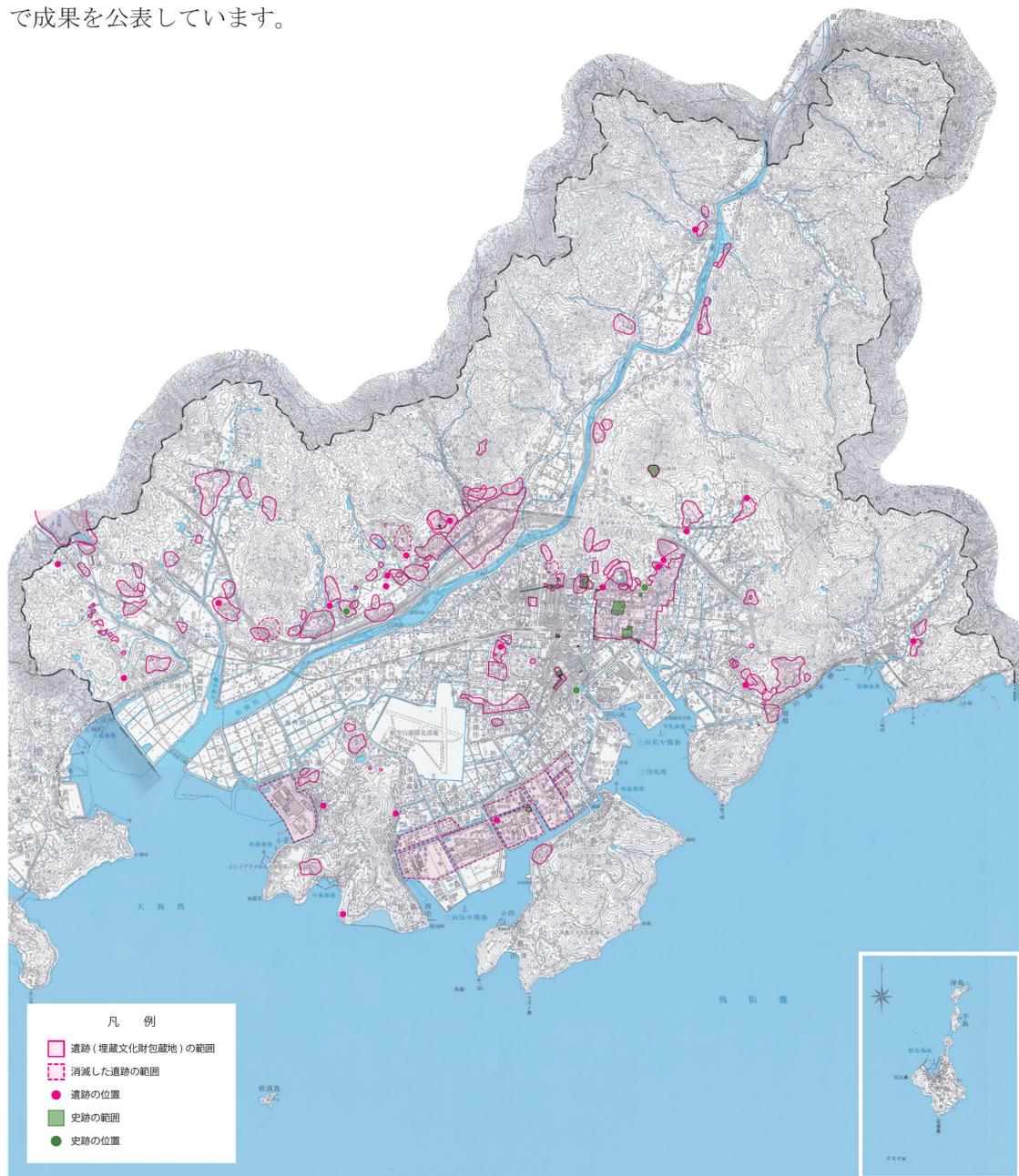


図 39 防府市の指定文化財等位置図

2. 文化財の総合的把握調査

(1) 行政組織(山口県・防府市)による文化財の把握

文化財を把握する調査は、これまでも県内の市町村協力のもと、山口県が主導して文化財の種別や設定テーマに沿ってその所在を記録した成果が蓄積されています。それらは本構想の総合的把握調査に取り組むうえでも有効な基礎的資料となります。各種の報告書があるうち、表4は防府市所在の文化財が掲載された山口県教育委員会による調査報告書等の文献一覧です。これらの文献により351件の防府市所在の文化財を確認することができましたが、現地での所在確認は全て完了しておらず、また現時点で消失しているものも含んでいます。リストアップした成果をもとに確認作業を今後も継続しておこなえるように取り組みます。消失した文化財については、消失前に作成した図や撮影された写真といった記録成果がかつて存在した事実を示すこの上ない資料となっています。こうした確認作業をすると、実物の文化財が消失した場合も想定して、記録成果が貴重な2次資料として活用されることを意図したデータベースの作成をおこなう必要性がみえてきました。これまでの文化財調査の成果を体系的に整理することも総合的把握調査に取り組むうえで大切な作業となります。

防府市教育委員会では前節に掲載したとおり、長年にわたり「有形文化財の悉皆調査」と「埋蔵文化財の発掘調査」に取り組んできました。表5に挙げた報告書等で、主にこれまでの悉皆調査で把握した有形文化財・有形民俗文化財の情報をまとめ、順次公表しています。表6はこれまで刊行した発掘調査報告書の一覧です。現況までの土地利用のあり方や防府の地域文化の特性を読み取るために欠かせない考古学の情報が掲載されています。文化財の所在地周辺の環境を考察する際にも利用できます。

表4 防府市所在の文化財が掲載された山口県教育委員会による調査報告書

【有形文化財 建造物】		【民俗文化財】	
山口県の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書	1979	防長産業の歩み	1981
草葺き屋根 山口県未指定文化財調査報告9	1995	山口県の民謡 山口県民謡緊急調査報告書	1982
山口県の近代化遺産 山口県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書	1998	諸職と用具 山口県未指定文化財調査報告書6	1989
山口県の近代和風建築 山口県近代和風建築総合調査報告書	2011	山口県の民俗芸能 山口県民俗芸能緊急調査報告書	2000
【有形文化財 美術工芸品】		山口県の祭り・行事 山口県祭り・行事調査報告書	2008
未指定文化財総合調査報告書 彫刻編	1983	【記念物】	
未指定文化財総合調査報告書 石造文化財編	1984	歴史の道調査報告書 萩往還	1981
山口県の美術工芸 文化財集中地区特別総合調査報告書	1993	歴史の道調査報告書 山陽道	1983
【有形文化財 歴史資料】		未指定文化財総合調査報告書 史跡 中世 編	1985
山口県の絵馬 山口県未指定文化財調査報告書4	1986	山口県の庭園 山口県未指定文化財調査報告8	1994
続山口県の絵馬 山口県未指定文化財調査報告書7	1990		
萩藩宰判勘場跡 山口県未指定文化財調査報告書10	2001		

表5 防府市の文化財調査報告書

防府市文化財調査年報Ⅰ	1978	防府市有形文化財調査報告Ⅻ 右田地区(2)	2002
防府市文化財調査年報Ⅱ	1979	防府市有形文化財調査報告ⅩⅢ 松崎地区(1)	2004
防府市文化財調査年報Ⅲ	1980	防府市有形文化財調査報告14 松崎地区(2)	2007
防府市文化財調査年報Ⅳ	1981	防府市有形文化財調査報告15 松崎地区(3)	2008
防府市文化財調査年報Ⅴ	1982	防府市有形文化財調査報告16 松崎地区(4)	2009
防府市文化財調査年報Ⅵ	1984	防府市有形文化財調査報告17 松崎地区(5)	2010
防府市文化財調査年報Ⅶ	1985	防府市有形文化財調査報告18 松崎地区(6)	2011
防府市文化財調査年報Ⅷ	1986	防府市有形文化財調査報告19 国指定有形民俗文化財 製塩用具(1)	2012
防府市文化財調査年報Ⅸ	1987	防府市有形文化財調査報告20 国指定有形民俗文化財 製塩用具(2)	2013
防府市文化財調査年報Ⅹ	未刊行	防府市有形文化財調査報告21 西浦・中関・新田・華城・向島地区	2014
防府市文化財調査年報Ⅺ	1989	防府市有形文化財調査報告22 石川家資料目録	2015

表6 防府市の埋蔵文化財発掘調査報告書

周防の国衙	1967	周防阿弥陀寺発掘調査報告書	2012
多々良寺山9号墳	1976	周防国府跡発掘調査報告3 一船所・浜宮北方地区の調査一	2013
井上山 一山口県防府市寿町所在弥生時代集落遺跡調査報告一	1979	平成23年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2013
下右田遺跡 市道古敷西線建設に伴う発掘調査報告	1982	平成24年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2014
周防国分寺・国府跡 公共下水道事業に伴う発掘調査報告	1983	下右田遺跡第29次発掘調査報告書	2014
周防国府跡 公共下水道事業に伴う発掘調査報告Ⅱ	1984	平成25年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2015
周防国府跡(史跡「周防国衙」跡)保存修理事業 報告書Ⅰ 一二町城・東北隅・西北隅一	1987	周防国府跡発掘調査報告4 一国府南限域の調査一	2015
下右田遺跡第7次調査報告 一右田幼稚園園舎改築工事に伴う発掘調査報告一	1999	周防国府跡第182次発掘調査報告書	2015
敷山・末田須恵器窯跡調査報告 一防府市内の須恵器窯の発掘調査及び表採資料の調査報告一	2000	平成26年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2016
井上山経塚・下山ノ口遺跡発掘調査報告	2001	周防国府跡発掘調査報告5 一二町城西方域の調査一	2016
佐野焼総合学術調査報告書Ⅰ 佐野焼17号窯(宮窯)発掘調査報告Ⅰ 一遺構・遺物編一	2002	周防国府跡発掘調査報告6 一国府北西部の調査一	2017
下右田遺跡第20次発掘調査報告 一宅地造成に伴う発掘調査報告一	2002	平成27年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2017
向山・柴山古墳群発掘調査報告	2003	仁井合条里跡第1・2次発掘調査報告書	2017
下右田遺跡第21・22次発掘調査報告書	2003	周防国府跡第184次発掘調査報告書	2017
岩淵古墳 山口県防府市大道岩淵 岩淵古墳調査報告書	2004	下右田遺跡第33・34次発掘調査報告書	2017
平成20年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2010	周防国府跡発掘調査報告7 一多々良地区・柳ノ本地区の調査一	2018
周防国府発掘調査報告Ⅰ 一溝辺・榎ノ本地区の調査一	2010	平成28年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2018
平成21年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2011	下右田遺跡第36次発掘調査報告書	2018
下右田遺跡第26次発掘調査報告書(SM-FL・FM)	2011	下右田遺跡第37次発掘調査報告書	2018
平成22年度防府市内遺跡発掘調査報告書	2012	下右田遺跡第38次発掘調査報告書	2018
周防国府跡発掘調査報告2 一鎌瀬・寿昌院・東式高洲名地区の調査一	2012	周防国府跡第186次発掘調査報告書	2018

(2) 総合的把握調査の目的と方法

前節「防府市の文化財保護の現状」に示すとおり、指定・登録文化財や、これまでの文化財調査で把握した内容を分析すると、文化財の分野・種別や地域ごとの把握件数に数量的な偏りが認められます。時代の志向に沿ったテーマ設定や携わってきた専門員が取扱える領域の限界等に要因があるとみられ、現状で把握されていない分野や地域に「文化財が存在しない」という意味ではありません。未調査部分であることや、文化財と認識されてこなかった場合が多くあります。身近な生活空間にある、昔から今日まで伝わってきたものの多くは、文化財として捉えることができます。例えば散歩の道すがら見かける記念碑・灯籠・石仏などの石造物はもちろんのこと、聞こえてくる小川のせせらぎの音や巨木の切株も歴史的な技術・文化に関わる情報を持っている可能性があります。こうした私たちの身近にある文化財が、総合的把握調査の対象となります。地域の人々が、これからも伝えたいと思う身近な文化財のリストアップをおこない、なるべく多くの情報を集積していくシステムづくりにつなげることが、調査を実施する目的です。

そのために市民と協働で調査をおこなう必要がありますが、本構想策定の機会に情報収集の目処をたてるための基礎的な作業に取り組みました。とりわけ詳細な情報を既に蓄積している市内各所の地域史・郷土史の研究団体の協力を得て、将来へ伝えていく文化財にどのようなものがあるかを把握するために基礎調査をおこないました。



(3) 郷土史団体による文化財の把握

防府市には創立50周年をむかえた防府史談会を中心に、各地域で長期にわたり歴史文化を研究してきた数多くの郷土史団体があります〔表7〕。こうした団体により、既に地元各地域に伝承する文化財が的確に把握されており、公共団体等による文化財把握調査の分野・内容を補完する記録がなされてきました。文化財を把握した成果の多くは刊行された各会誌、各種企画によって作成されたマップ等により公表されており、地域の豊かな文化相を読み解くために欠かせない資料となっています。

これらの文献資料により592件の文化財を把握しました。

表7 防府市の郷土史会

団体名	発足年	会誌（創刊年～最新号刊行年） / 主な刊行書籍・冊子（刊行年）
防府史談会	1968年（昭和43年）	『佐波の里』1971～45号2017
小野郷土史研究会	1976年（昭和51年）	『ふるさと小野』1988～7号1998
牟礼郷土誌同好会	1977年（昭和52年）	『ふるさと牟礼』1979～10号2017
右田地区史蹟保存会	昭和50年代はじめ	『ふるさと読本 右田』2000 / 『右田の石造物』2012
ふるさと大道を掘り起こす会	1981年（昭和56年）	『ふるさと大道』1981～18号2013 / 『おもしろ再発見 郷土読本 ふるさと大道』2006
華城の歴史を勉強する会	1981年（昭和56年）	『郷土誌華城』1987 / 『華城の百年』1989
新田の歴史を掘り起こす会	1986年（昭和61年）	『ふるさと新田』1987～6号1997
防府歴史と考古学の会	1987年（昭和62年）	『歴考』1998～19号2016
富海史談会	1988年（昭和63年）	『富海村史稿』（復刻）1989 / 『大阪通いで活躍した飛脚船・富海飛船の歴史』2014
西浦文化研究会	1990年（平成2年）	『郷土史 ふるさと西浦』1996 / 『郷土史 ふるさと西浦 補巻1』1998
佐波地域郷土史同好会	1990年（平成2年）	『佐波の故里』1995
松崎歴史同好会	1993年（平成5年）	『松ヶ崎』1994～20号2013
中関の歴史を学ぶ会	1993年（平成5年）	『中関』1995
華浦の歴史を学ぶ会	1997年（平成9年）	『三田尻』2001～3号2008
勝間歴史同好会	2000年（平成12年）	『勝間』2002

（4）市民調査員による文化財把握調査

本構想の内容に文化財の新しい魅力を盛り込めるように、市民感覚でそれらを探して提言する役割を担う「市民調査員」を、平成26年7月に市広報・ホームページ等の周知媒体を利用して募集しました。市文化財専門職員による文化財を知るための講習会等を経て、平成26～29年度にわたってテーマや地域を設定した実地調査として「まちあるき」を実施しました。事前学習や事後考察等のワークショップを通して、これまで文化財として取り扱ってこなかった内容で今後は詳細な追究を必要とするものや対応すべき点等について、市民調査員から数多くの提案をしていただきました。これまでの活動の成果として、本構想を契機に新たに取り組もうとするテーマや着眼点を①～⑤のようにまとめました。

- ① 道路・水路を歴史文化の視点で把握する
- ② 塀や生垣などの素材に着目し、歴史文化の観点で見直す
- ③ 石積み・石垣の構築技術を見直す
- ④ 民俗文化財との関わりを深める
- ⑤ 把握した文化財の管理を強化する

日常の生活空間にあって地域の歴史文化の特徴を表わしていても文化財として意識してこなかった事物の中から時代の違いや地域の差などを比較しながら考察対象を探す作業をおこないました。次頁以降にこの企画の調査概要と今後の展望を掲載します。

①道路・水路を歴史文化の視点で把握する

市内の江戸時代の状況は山口県立文書館等で保存されている古地図（絵図）を利用することで視覚的に捉えることができます。『地下上申絵図』、『御国廻御行程記』、『三田尻惣絵図』、『防長風土注進案荒図』といった資料に表現された道路・水路と現況ルートが一致する事例は多く、これらの施工の起源が江戸時代まで遡ることを教えてくれます。原地形に沿うように設定された近世に遡る古い道路・水路も舗装面等の表層部分は後世の改変がなされていますが、路幅の規模や設計された勾配等の技術的要素の多くは近世の状況を踏襲しています。周辺環境の変化は大きいですが、何気なしに利用している生活道路や風景の中にある水の流れが身近な文化財であることをあらためて認識することが大切です。防府市は様々な古地図（絵図）等の歴史資料と現地の土木遺産が双方とも保存されている恵まれた要件を備えています。道路・水路も地域の原風景を伝える文化財情報として、歴史文化の追体験ができる空間利用の整備等の施策に活用できるように整理します。



地下上申絵図

御国廻御行程記

防長風土注進案荒図

図 40 絵図等資料(宮市部分) 山口県文書館蔵

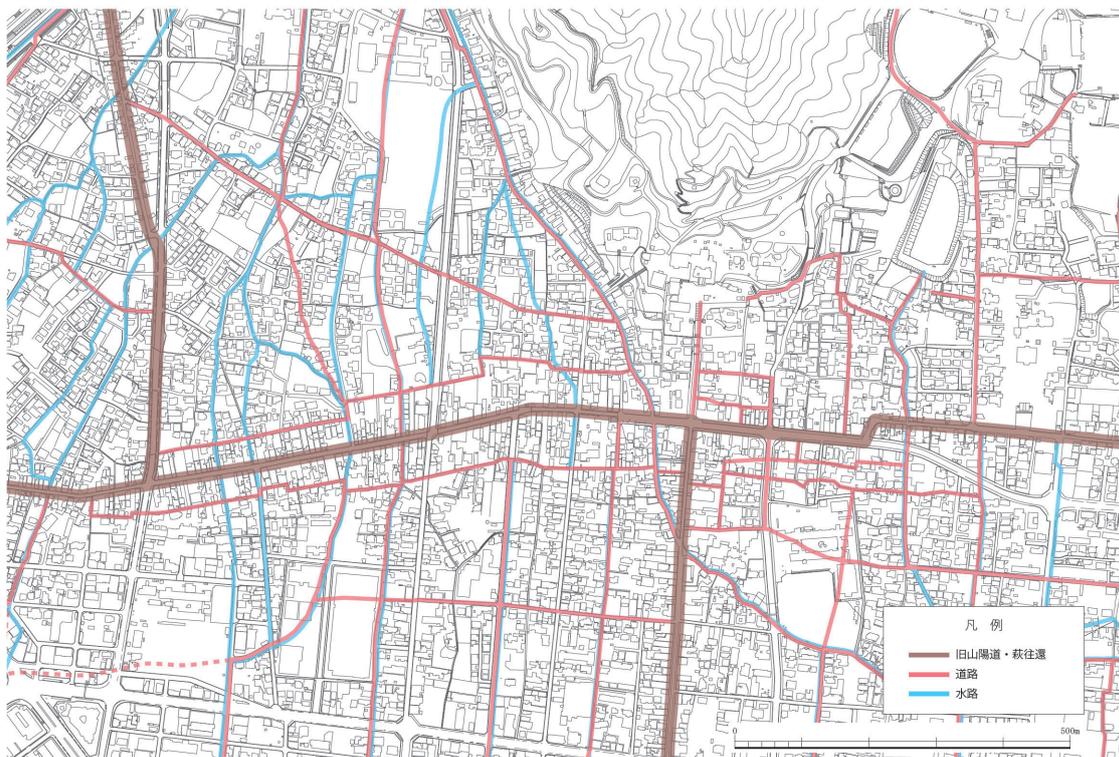


図 41 絵図で確認できる道路・水路

②塀や生垣などの素材に着目し、歴史文化の観点で見直す

近世以前では、建築を取り巻く空間の周囲に塀・柵等をめぐらし、門扉やアプローチ・庭園等の外構施設を整備することは、支配階層の限られた有力者が整備する特殊なものでした。明治6年(1873年)から始まった地租改正により土地の所有者が明確になった制度上の影響もあり、近代後半以降になると敷地が隣接する都市部では特に、外構を伴う住宅が一般的となる歴史的な経緯があります。太平洋戦争末期の絨毯爆撃を免れた市域には戦前に数多く施工された炭滓・鉾滓煉瓦たんさい こうさいれんがによる塀が敷地をめぐる住宅が多く残っています。デザイン性も含めて煉瓦の積み方にバラエティがあり、集成したデータを分類することで技術的な広がりや施工時期を解明できる可能性があります。他に焼成煉瓦や石材、擬石材による塀もあり、技術的な背景を読み取ることで時代の標式となる要素をもっています。生垣の種類もマキ類・スギ類がそれぞれ多い地域があり、施主や庭師等の管理職人の趣向や風土が織り交ざって地域性を反映しているようです。このように塀や生垣などの素材を分析して歴史文化の情報として整理を進め、通りの歴史的な景観の保全に寄与できるように努めます。



図 42 防府の外構施設

③石積み・石垣の構築技術を見直す

市域には石垣遺構を代表する壮大な近世城郭跡がないため、これまでに石積み・石垣の構築技術に大きな関心を寄せる機会はありませんでした。しかし全国的に石積み・石垣の研究が進展してきており、その成果と比較対照することで市域各所に施工された石積み・石垣の歴史的な位置づけができるようになりました。近年では石積みの技術体系の中で、裏込石として栗石を使って構築している高い擁壁を「石垣」と呼称するのが一般的です。市内で古い石垣として着目できるのは、中世に構築された阿弥陀寺境内に残存する石垣で、発掘調査によって構築技術の一端が明らかとなりました。同じように中世の山寺跡では真尾の松尾山天皇院の石垣や、一部が敷山城として国史跡に指定されている験観寺跡の事例があり、遺構調査により近接した地域で技術的系譜を追究できる環境にあります。右田毛利邸の石垣は構築の起源が近世前半にあるとみられ、城郭の石垣と同様の壮麗なものです。宮市や富海の宿場町や三田尻町でも、近世以降に、今も町中に残る石積み・石垣を築いて区画整備を推進した様子を観察することができます。近代には谷積みや間知石による石垣が数多く築かれるようになります。市内で一番高さがある防府天満宮の石垣は近代の卓越した技術力を物語るものです。また棚田の景観を形づくる農地石垣も地域色を観察できる土木遺産といえます。変成石や花崗岩といった各地域の地質の組成によって石組みの方法が異なっていて、それぞれの景観上の特徴を示す要素として捉えることができます。

各時代の最新の技術で築かれた石積み・石垣が市域各所に存在することがわかってきました。ただ、場所によっては経年変化で石組みが崩れて看過できない状況があることも確かです。石積み・石垣を文化財として把握しつつ市担当部局と連携し、地域の生活安全の確保や農地保全を目指す施策にもつながる取り組みとなるようにします。



中世の石組み [阿弥陀寺]

近世前半の石組み [右田毛利邸]

近世後半の石組み [富海]

近世後半町屋の石組み [三田尻]

近代に築かれた高石垣 [防府天満宮]

近代棚田の石組み [久兼]

図 43 市域各所の石組み

④民俗文化財との関わりを深める

民俗文化財は私たちの日常生活の中で最も身近な文化財といえ、民俗学の調査は、現在ある地域の文化を知って、活用するために必要な方法と考えます。この時機に意識して把握調査をしなければならないのは無形の技術体系や伝承文化といった代々人づてに伝わった様式を記録することです。鍛冶・焼物・大工・石工・和菓子・醸造等の職人仕事が次世代に伝えられず、道具等も散逸する傾向にあることがわかりました。今後は、生業を成り立たせていた空間が失われぬ内に、かつての技術保持者や関係者に聞き取り調査等をおこなう必要があります。

また、地域全体で継承してきた技術も危うい状況です。例えば、正月飾りの輪飾りや地元の神社に掲げる注連縄等しめなわを本格的に編み上げる人材は確実に減少しています。これらも地域ごとの特徴があることを示せないまま集団的記憶からも立ち消えてしまう可能性があります。実践している地域もありますが、世代を超えた交流を促して、体験を通して知る機会を設定することも大切です。

山口県教育委員会が編集した『山口県の祭り・行事』に記載された防府市域の行事を現地調べたところ、既に行事や地域としての取り組みがおこなわれていない事例も見受けられました。継承されている祭り・行事はできるかぎり見学し、写真撮影やビデオ撮影による記録をおこないました。動画編集の特技を持つ調査員により公開サイトにアップしたものもあります。趣味・特技に合わせて興味ある伝統行事に参加することも文化財との関わり方のひとつといえます。また、いくつかの祭礼で流れる横笛の音色が録音再生であることに気づきました。地域ごとで演奏者の継承が難しい部分があれば、近隣市町の状況も含めて全体で継承する方策も必要です。



図 44 民俗文化財

表8 防府市の主な祭り・行事（『山口県の祭り・行事』の情報を基に加筆・編集）

地域	名称	行事日	場所	
松崎・三田尻	お日待ち	正月の日	各戸	
	荒神様	2月14日・7月11日	頭屋	
	聖天祭	4月16日	国分寺	
	岩地藏	8月24日	地藏前	
	人丸様	9月4日	人丸神社	
	権現様	9月28日	天満宮境内の愛宕社・高砂6社	
	お大師参り（桑山八十八ヶ所巡り）	毎月1・15・21日・1月7日	大師堂及び桑山周囲	
	どんど焼き（左義長）	1月15日	妙見神社	
	節分祭・牛替神事	2月2～3日	防府天満宮	
	荒神様（三宝荒神講例祭）	3月28日	岡村荒神社前広場	
	津山神社の例祭	4月第1日曜日	津山神社	
	金鮎祭	5月15日	防府天満宮	
	奴道中（御神幸行列）	5月18日	桑山八幡宮	
	お田植神事	6月30日	防府天満宮	
	名越神事（輪くぐり・輪とり）	6月30日	防府天満宮	
	御廻在祭	7月25日	蔽島神社境内及び地区内	
	誕辰祭（千灯祭）	8月3～5日	防府天満宮	
	子供安全祈願祭（秋の大祭）	9月第1土日曜日 ※平成30年9月1日	妙見神社境内及び地区	
	妙見神社の例大祭	9月上旬 ※平成30年9月1～2日	妙見神社	
	花神子祭り（花神子社参り）	10月14日	防府天満宮	
野村望東尼追悼会	11月5日	桑山大楽寺		
御神幸祭（裸坊祭）	11月第4土曜日 ※平成30年11月24日	防府天満宮		
牟礼	木部観音講	毎月18日・4月中旬・7月15日	木部観音堂	
	大寒みそぎ	1月20～22日	春日神社境内	
	岸津神社例祭（妙見社祭り）	3月21日・9月23日	岸津神社	
	今宿疫神講（地藏まつり）	4月29日・8月上旬・11月下旬	頭屋の家	
	阿弥陀寺開山	7月14日	阿弥陀寺	
	敷山城の慰霊祭（忠死者慰霊祭）	8月2日	敷山城	
	春日神社庭神事（九日祭庭神事）	10月6日	春日神社境内広場	
	鬼祭	10月7日	春日神社	
	堀越三神社大祭	10月第3土日曜日	字壺神にある三神社	
	右田	地神祭	1月・7月頃 年2回	班別に当番の自宅
		十日祭	3月10日	若宮社
		稲荷講	3月春分の日・9月10日・12月10日	稲荷堂
花祭り		4月8日		
玉の祭り（めがね祭り）		4月8日	玉祖神社	
宮島祭（十七夜）		旧暦6月17日に近い日曜日	地域内宮島社	
地藏講（地藏祭・地藏堂祭）		7月24日	自治会内3つの地藏堂	
厄神祭（風鎮祭）		8月14日	地域小字内の厄神社	
占手神事（占手相撲・夜神事）		9月25日に近い日曜日 ※平成30年9月29日	玉祖神社	
華城・新田		元始祭	1月2日	伊佐江八幡宮
	玉祖明神祭（明神様）	1月5日に近い土曜日	玉祖明神祭	
	穂例祭（粥占神事）	1月14日	伊佐江八幡宮	
	御正忌報恩講法要	1月14～16日	光宗寺	
	大歳神社大祭（地神堂・地神様）	1月17日・9月17日に近い日曜	大歳神社（地神堂）	
	荒神様（堀江神社祭礼）	2月11日・8月28日	植松八幡宮境内	
	桑山八幡宮例大祭（桑山八幡宮春祭）	5月第3土日曜日	桑山八幡宮	
	植松八幡宮大祭	5月17～18日前の土日曜日	神社境内・馬場先お旅所	
	伊佐江八幡宮御例祭（春の大祭）	5月18日前の日曜日	伊佐江八幡宮	
	地藏祭	7月24日	華城地域の各地蔵堂	
	御廻在	7月28日前の日曜日	伊佐江八幡宮及び氏子区域内	
	風鎮祭	8月24日前の日曜日	伊佐江八幡宮	
	大歳祭	12月17日前の日曜日	大歳社（伊佐江八幡宮境内）	
	中関・西浦	地神祭	旧暦1月5～7日直近日曜日	頭屋宅
初午祭		3月27日	向島赤碓の立岩稲荷神社	
地神祭り		2月11日	旧新地中ノ町	
御霊社祭り		2月11日	御霊社	
殿様祭り（八柱の神祭り）		3月下旬	開作西地区	
焼火神社の祭り（火除様の祭り）		5月10日	潮合地区	
和立海神社の十七夜祭り		旧暦6月17日に近い土曜日	和立海神社・新地～小茅	
玉祖神社の田頭御幸祭（御廻在）		7月15日	玉祖神社	
金切神社秋祭り（金切様の鬼祭り）		10月第1土曜日	金切神社	
吸江寺の年越座禅会と修正会		12月31日～1月1日	吸江寺	

地域	名称	行事日	場所
富海	脇の地神申し講	旧暦1月11日	頭屋
	石原地区のお薬師様(甘茶のお接待)	5月8日	薬師堂
	三宝大荒神(梶野の荒神様)	9月17日	荒神社
	戸田山の荒神様	9月23日	荒神社
小野	地神祭(農神・作の神祭)	1月上旬の土曜又は日曜日	頭屋又は地区公会堂
	申緒打ち(庚申様)	3月下旬の土曜又は日曜日	頭屋宅
	八坂神社夏祭り(祇園祭り)	6月15日に近い日曜日	八坂神社
	御回在(虫送り・虫封じ)	6月下旬の日曜日	鈴屋・奈美地区
	地藏祭(地藏菩薩祭・地藏盆法要)	旧暦7月24日	真尾宇石原の地藏前
	鈴屋宇佐八幡宮例大祭	旧暦8月15～16日に近い日曜日 ※平成30年9月30日	鈴屋宇佐八幡宮
大道	恵美須社祭り	1月10日	大道駅南
	どんど焼き	1月15日頃の日曜日	繁枝神社境内
	地神さま	正月初旬～中旬	各地区
	お大師さま(大師講)	旧暦3月20～21日	大道切畑
	津山神社春祭り	4月初旬日曜日	津山神社
	式拾五年祭	5月3～5日	切畑玉祖神社
	火除け祭り	7月上旬	岩淵観音寺境内
	交通安全地藏祭り	7月24日	大道市西
	観音様夏の縁日・冬の縁日	8月9日・2月18日	岩淵観音寺
	天満宮秋祭り	9月第2日曜日	下津令天満宮
	繁枝神社秋祭り	9月最終日曜日	繁枝神社
	玉祖神社秋祭り	9月最終日曜日	切畑玉祖神社
	小俣八幡宮秋祭り	9月最終日曜日 ※平成30年9月30日	小俣八幡宮
	大歳祭(大歳さま・大歳講)	10月末～11月下旬	東畑
	大道まつり	11月第2日曜日	大道小学校・公民館
	大歳祭「なんじょうの舞」	旧暦11月30日	岩淵地区
野島	お笑い講	12月第1日曜日 ※平成30年12月2日	当屋(頭屋)
	野島盆踊り	8月13～15日	広場
	御年祭	4年に1度の5月上旬	野島の矢立神社前庭

⑤把握した文化財の管理を強化する

文化財の実地調査をしてあらためて気づくことは普段人目につかないところに多くの文化財があることです。昨今、注意喚起がなされている文化財の盗難・被災に対する対応がまだ不十分と言わざるを得ない状況です。地元の自治会等が管理するお堂の修理もままならず、安置・収納されている仏像や文書類の劣化も危惧されます。屋外に設置された半鐘・鰐口等の金属製品も取り外しが容易なものは不安を感じる状況です。文化財の総合的把握の企画にふさわしい定期的で全体的な状況チェックの必要性があり、そのために自然的・社会的環境を勘案した総合的に維持管理できる体制を築きあげることが重要であることを認識しました。



図45 真尾観音堂



図46 調査中の歴史的建造物

(5) 景観調査による文化財の把握

防府市は平成24年に防府市景観計画を施行しました。その内容の住民説明会の開催と合わせて、平成25・26年度に都市計画課が山口県立大学と連携して市内15ある公民館すべてを回って、地域ならではの景観資源を把握する目的のワークショップを実施しました。景観資源の多くは文化財としても捉えることができるため、文化財課も参画しています。ワークショップでは参加した住民に地元ならではの特徴的な建物・場所・祭り等を教えてもらい、地図(1:10,000)に位置と「良い」と思う内容や理由を書き込んでいく作業をおこないました。開催側は地元の人しか知らない資源を把握できたことが成果ですが、参加者も地域で自慢できる景観を再認識する機会となりました。2ヵ年にわたるワークショップで700件程度の資源が挙がり、重複する内容等を整理した結果、524件の景観資源を基礎データとして把握しました〔図47〕。なお、平成22年から市民の景観意識の高揚を図ることを目的として、良好な景観づくりに貢献している建物・風景を撮影した写真を募集し、優秀な作品に「防府市景観賞」を贈り表彰する企画を開催しています。

ワークショップで挙げられた景観資源の内容は指定文化財をはじめ、社寺・古民家、町並景観・記念碑、年中行事や景観木、棚田・海岸・疏水の風景等、殆どが文化財として把握できるものです。地域で自慢できるものは他地の人にも見て欲しい、次世代に引き継いで欲しい。といった感想も多く、「景観資源＝文化財」に対する想いや今後の保存・活用についての市民の意向を聴取できました。こうした成果も文化財の総合的把握調査の基礎データに組み込んでいきます。

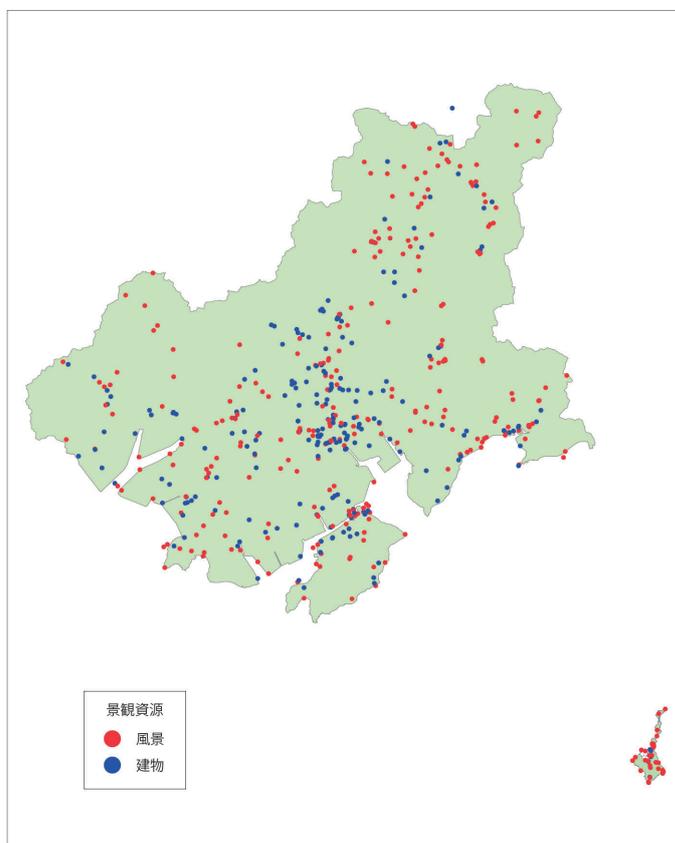


図47 ワークショップで把握した景観資源



図48 防府市景観賞 表彰作品

(6) 地域の特徴をあらわす文化財の調査

これまでの文化財調査で、未だ実施していない分野や現況の把握が不十分なものがあります。それらを補完するためにも調査対象を定め、優先順位を決めなければなりません。これから取り組もうとする文化財調査の中で、地域の特徴をあらわす内容を持っていて、消失の危機にあることによる緊急性や地域づくりのために必要性が高いと考えるテーマとして、①建造物・まち並み ②土木構造物 ③民俗文化財 ④文化的景観 を掲げ、総合的な調査を実施していきます。本構想策定の機会に実施した調査についてはその概要を示し、継続しておこなう今後の調査の指針とします。

①建造物・まち並み

文化財建造物の調査は文化庁の補助事業等で実施した全国的な調査があります。近世社寺建築緊急調査、近代化遺産（建造物等）総合調査、近代和風建築総合調査の各事業の報告書に載録された防府市に関する建造物等は192棟です。その中には今日までに取り壊しや火災により消失したものも少なくありません。また市域の歴史的建造物の全てを把握する目的ではなかったため、改めて悉皆調査を実施する必要があります。そこで平成27年（2015年）と平成29年（2017年）に本構想の文化財保存活用区域に関わる地域を対象に調査範囲を設定し、歴史的建造物の現況を把握する悉皆調査を実施しました。歴史的建造物として捉える年代は登録有形文化財の考え方と同様に概ね50年を経過した建造物としました。ただ顕著な建築家による設計

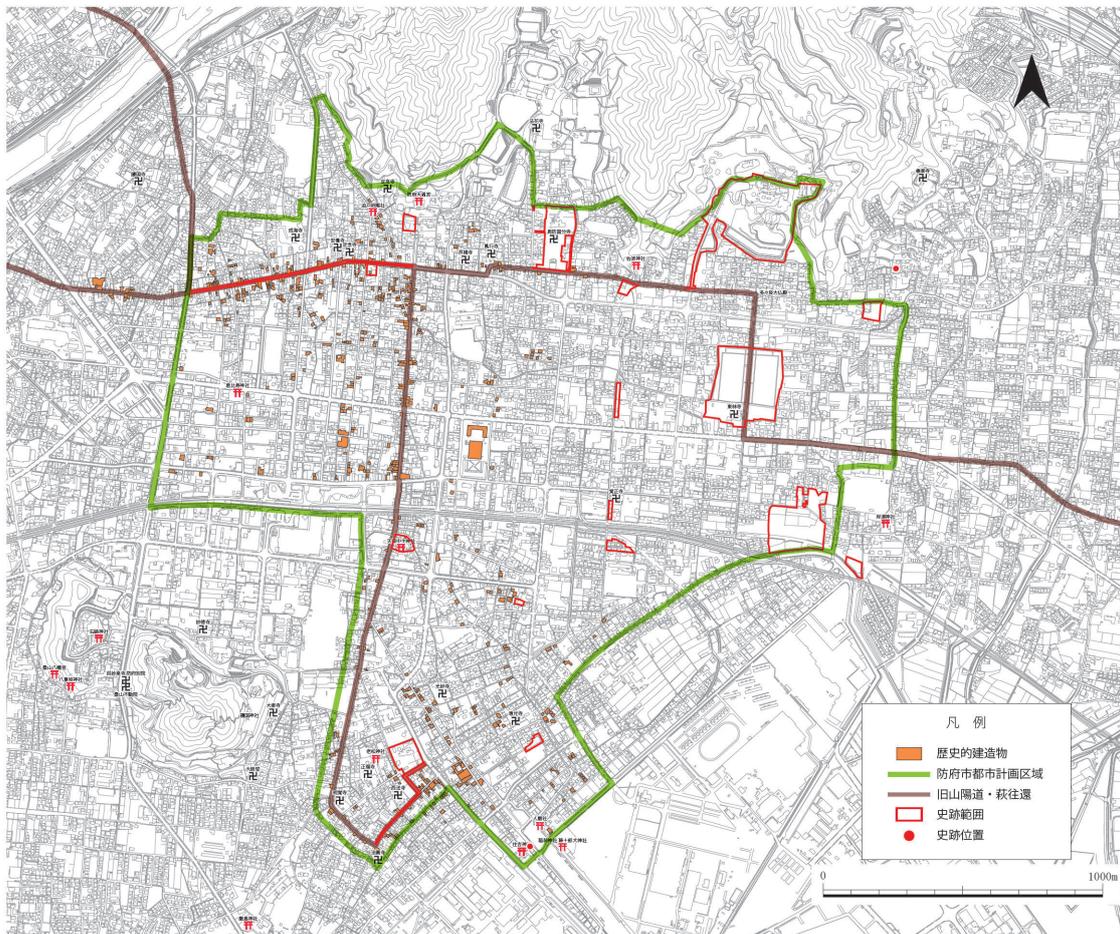


図49 歴史的建造物の分布状況(2015年)

であることが明らかな場合や建築デザインが時代性をよく表わし地域の象徴として重要な役割を果たしているものは価値あるものとして把握しました。調査方法は外観の目視観察でおこない、用途・規模・構造形式・建築年代・保存状況と全体の特色や細部意匠の特徴を記述した調査票をつくり、個々の情報に見合う写真撮影をして記録しました〔図 50〕。

平成 27 年に実施した都市計画範囲内の調査では、中心市街地を含めた調査面積 400ha で社寺建築を除いた歴史的建造物 609 棟を把握しました〔図 49〕。その大部分は明治後期から昭和前期の建築で、近代の歩みを示しながら現在でもまち並み景観に寄与するものが多くあります。



No.96 つし二階（出桁造・持ち送り、白漆喰塗籠め）



No.89 つし二階（出桁造・持ち送り、壁白漆喰塗）



No.65 真壁造（二階の高い建ち、開放的な立面構成、出桁造と持ち送り）



No.312 真壁造（二階庇、出桁造、軒廻りの吹寄せ垂木）

図 50 悉皆調査で把握した歴史的建造物（調査票より抜粋）

この歴史的建造物の悉皆調査で作成した調査票を基礎データとして分析すると中心市街地のまち並みの特徴がみえてきます。歴史的建造物は旧萩往還・山陽道沿いに面して建つものと、路地に面して建つものが合わせて351棟となり全体の6割程度を占めています。街道を中心とした道路に面してよく残っていることを表わし、宿場町や港町に関わる町屋が連続するまち並みの景観を継承していることがわかります。構造形式は木造が圧倒的多数です。

歴史的建造物の階数は平屋と二階建てがほぼ半々となり、地域における低層建築の基軸となっています。また間口3間以上のものが7割程度を占めていて、土地利用が町屋建築の伝統的都市建築の基本構成を踏襲していることがうかがえます。

屋根形式も道路沿いに平入りに構成された町屋を踏襲したものが多くことから切妻造が6割以上を占めています。

いずれのデータからも歴史的建造物が構成するまち並みが街道に関わりながら今日まで維持されてきたことが読み取れます。その保存状態は7割が良好な状況ですが、2割が辛うじて維持されている状況の中、38棟が破損して倒壊の恐れがある状況となっています。空き家の状況を呈するものも多く見受けられます。

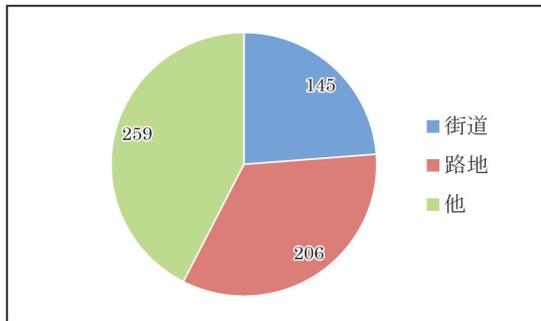


図 51 立地状況

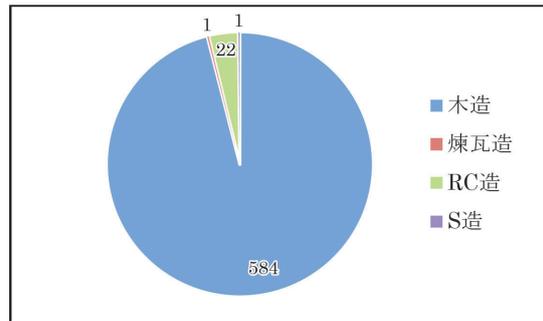


図 52 構造形式

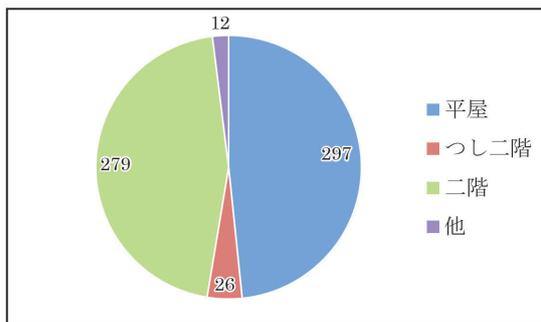


図 53 階数

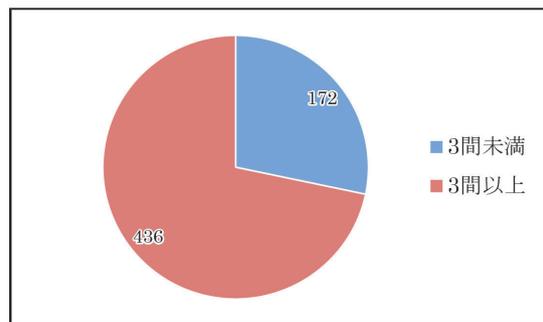


図 54 間口

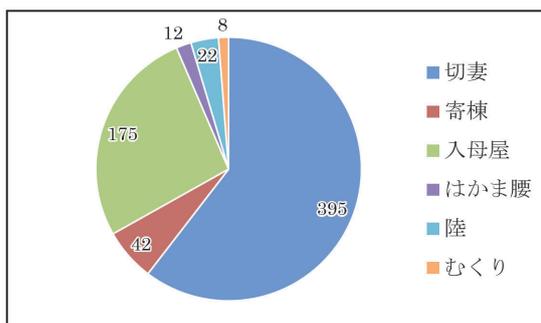


図 55 屋根形式

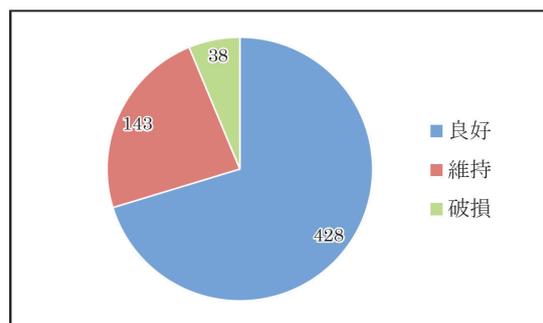


図 56 保存状態

平成29年には都市計画範囲外の近郊地域で文化財保存活用推進区域として設定する富海・右田・鈴屋・真尾・佐野・久兼・大道・中関の各区域（合計面積92ha）の中で歴史的景観がよく残る範囲に限定して2015年と同様の調査をおこない、305棟の歴史的建造物を把握しました。宅地が耕作地と隣接する農家でも古い家屋の取り壊しが進んでいて、空き家となっている事例も多いこと、住民の高齢化と世代交代が著しい情勢の集落では把握した歴史的建造物の保存管理が難しいこと等の実態が現地で調査に携わることでわかりました。こうした状況の中、既往の調査研究成果で山口県中央域に多く分布していることが知られ、防府の農家の特色を表わすといわれている「中門造り」と「釣屋造り」の構造をもつ歴史的建造物の数もかなり少なくなってきました。どの地域にも欠かせない農業を中心とした生活文化の様子を如実に伝える建物形式の事例として本格的に調査し記録しつつ把握していくことが今後の課題となります。

「中門造り」は、主屋屋根の後部に、突出する小さい屋根が付く形状を特徴とする建物で、呼称や形状・機能は江戸時代の藩の施設（勘場・番所等）や寺院、本陣等の文献や絵図等に記載された「ちゅうもん（中門・注文）」の事例までたどることができます。現存する民家建物の事例では、主屋屋根から突出する方向や機能によって、台所中門・納戸中門・両中門・西中門等に分類され、それぞれに分布地域や派生の状況は異なります。その中でも防府市の佐波川沿いに密な分布域があるのは、主屋屋根の後部に2か所の突出屋根を設けた「両中門」の形状で、外観は佐賀県の「くど造り」に似ています。

図57は明治28年（1895年）に上棟したことが記録に残る市村家住宅（防府市奈美・平成25年の調査後に解体された）の平面模式図で、両中門のわかりやすい事例です。突出部が3か所あり屋根形状は複雑ですが、平面形は単純な空間構成をしていることがわかります。「三間（みま）下り」と呼ばれる梁行方向に3部屋を配置した大きな主屋建物にける屋根として、小屋根を連続させた両中門は適しています。屋根を支えるための太く長い木材を使う必要がないことが特色で、茅が豊富な昔の環境であって、大きな木材に頼らずに広い面積の建物を覆う屋根をかける理にかなった方法として採用されてきたとみられます。また、こうした形状は風に強いともいわれています。

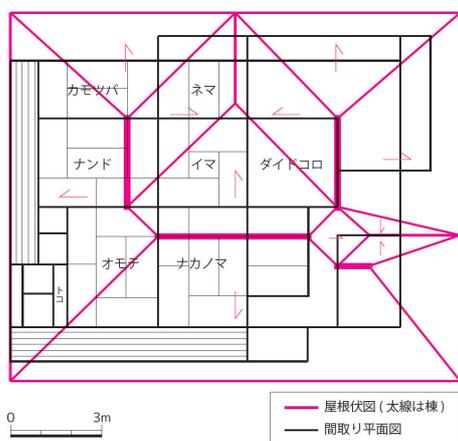


図57 市村家住宅平面図



図58 市村家住宅外観



図59 小屋裏の状況

図 60 のように、主屋と長屋の 2 棟に屋根をかけ渡して連結した家屋配置を「釣屋造り」と呼び、防府地域に分布の中心がある家屋形態です。主屋と付属屋をつなぐ建物を「釣屋」と呼ぶことに名称の起因があります。主屋の東側に直角に長屋を配置するのが一般的ですが、山間部の横長の敷地では一直線上に配置されたり、南北に長い敷地では主屋の後方に長屋を設ける事例もあります。

現在みられる主屋の状況はかつての土間通りが応接間となって玄関がつくられる等、様変わりしている部分もありますが、家族の寝食居室の間取りは昔ながらの利用がなされ、生活の主体となる空間です。長屋は、かつてダヤ（牛馬の飼育場）と堆肥場がある空間でしたが、現在は農機具等を収納する物置となっていることが多くなっています。長屋の一番南にある部屋は家によっては床の間や押入れがある座敷となっていて、家族のうち老人や若者が離れとして使うことは昔からあったようです。農家では現在でも長屋で脱穀や機具の整備等の作業がおこなわれており、雨天でも都合が良いことや手狭さの解消も兼ねた屋根付きの通路として釣屋が機能しています。

屋敷構え全体を見ると、大切な客を迎える主屋のオモテの間の正面には花木のある庭園がついていて、ハナニワと呼ぶ表向きの空間として扱われ、手入れが行き届いた趣向を凝らした庭園をもつ農家も少なくありません。またハナニワの隅に屋敷神を祀る旧家もあり、敷地の中で特別な意味を持った空間となっています。

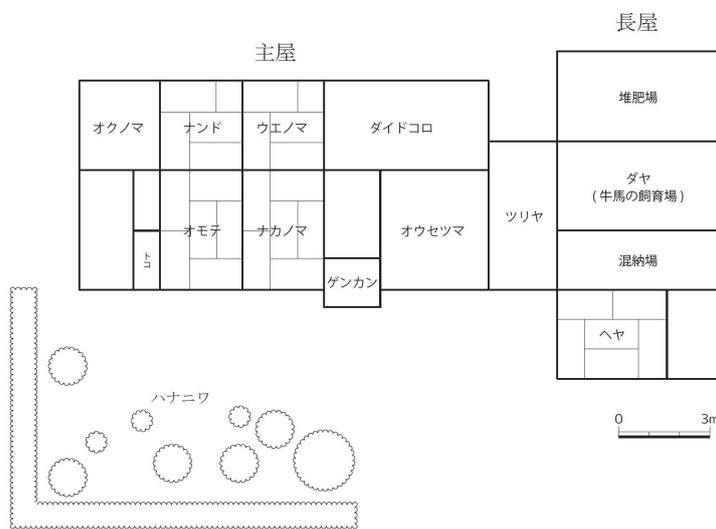


図 60 釣屋造りの家屋配置平面模式図



図 61 釣屋造りの住宅（大道）

〈参考文献〉

『山口県の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告』山口県教育委員会、1980
 福田東亜「山口の住まい小史」『山口のすまい「山口のすまい百選」選定事業』山口県土木建築部住宅課、1996
 山口県教育庁文化財保護課 編集『山口県の近代化遺産 山口県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書』山口県教育委員会、1998
 『山口県の近代和風建築 - 山口県近代和風建築総合調査報告書 -』山口県教育委員会、2011
 『草葺き屋根 山口県未指定文化財調査報告』山口県教育委員会、1995

②土木構造物

太古の時代から続いてきた佐波川の流水作用による営力で防府平野が形成されてきましたが、防府に暮らしてきた人々は、こうした自然の恩恵を利用しながら文化を育んできました。防府平野にはその時代の自然条件に適応しつつ持ち合わせた技術力によって産業の振興がなされ、開拓が進められたことがわかる歴史的な土木構造物が多くあります。近年は農地が宅地に変わる等で土地利用が大きく変貌し、かつてあった歴史的な土木構造物も姿を変え、あるいは失われつつあるのが現状です。こうした動向に対応して歴史文化的に重要な土木構造物を選定して記録していく必要があると考えています。治水技術や農業技術に関わって堤構築等のハード施設の歴史的情報も重要ですが、維持・管理に関連しておこなわれてきた祭礼や行事も記録の対象とします。

土木構造物として挙げられるのは平野の安定的利用を講じる治水対策として構築された堤防があります。中世にも治水対策はありましたが、近世になって干拓が本格化する段階で佐波川左岸の堤土手の強化が進んだとみられます。本流左岸に築かれた堤防は現況のものに更新されていますが、河岸から離れた場所に旧態のままの土手がわずかに残されています。土手の形状は失われても路盤がやや高い道路として利用されている事例もあります。上流の和字や西浦河口付近に近世に構築されたとみられる水刳（みずはね）の痕跡が残っていることは着目できます。



図62 残存する佐波川左岸堤土手



図63 水刳

上流部で水制が効くようになることで干拓事業が推進しました。萩藩では干拓のことを開作といいます。藩による公営の公儀開作は大規模で、特に元禄12年（1699年）の三田尻大開作は270町歩におよぶ壮大な事業でした。この時に築かれた土手は全て道路となって現在でも利用されています。どの開作地でも潮留をおこなった場所には「築留」という地名が残っています。干拓事業と新田開発に関わる土木技術の痕跡が現地でのどの程度残っているかを調査により明らかにしていきます。

そして開発した新田に導水する疏水の設計技術にも着目しなければなりません。多少の変遷はありますが、基幹水路は近世の古い技術を引き継いでおり、旧河川流路の形状に沿って細やかに配水することで広大な農地を潤しています。農業用水である疏水がかつては生活水として洗面・炊事・風呂水に使っていて、迫戸地域には水を汲むための「汲地」という施設が残されています。近代以降は農地整理によって都市の居住域が拡大していきますが、疏水と生活空間との関係性を示す遺構も把握していきます。

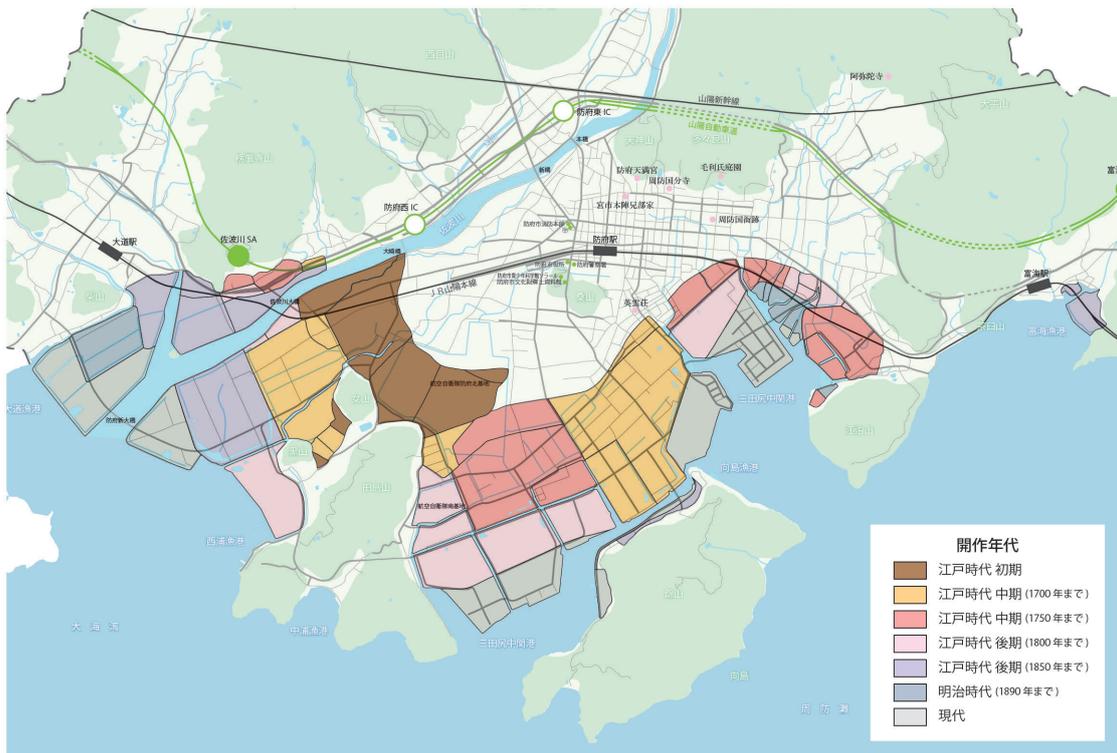


図 64 干拓の歴史



図 65 汲地



図 66 庭園導水施設

佐波川の疏水が使えない地域では山あいの谷筋を堰き止めて構築した溜池を利用してきました。防府市が把握している溜池は現在 459 ヶ所あり、近世以前から利用している溜池も数多く含まれます。休耕地の増大にともなって現況の溜池の多くは灌漑施設として機能しないだけでなく、管理が行き届かず荒廃が進むことにより、決壊が危ぶまれている状況です。現況で灌漑の機能を果たしているものは管理するうえで、古来の行事も伝えている可能性があり、優先して記録調査を実施していきます。

溜池の用水を流下して農地に配水する機能を果たしてきた流路は防府では天井川となっていた事例が多くあります。天井川は河床の高さが生活面より高く設定された人工の河川です。その背景には土砂堆積が増大する自然作用の影響と、生活や農業生産に便利のように河川を直線的に固定化してきた歴史的経緯があります。中世の半ば(14世紀～15世紀前半)になると洪水が頻発するようになり、天井川はその土砂堆積を利用して河川の整備がなされてきたことが発掘調査成果によりわかってきました。天井川は歴史文化と古環境の情報が盛り込まれた存在でもあります。住宅建設が天井川流路のすぐ近くまで進んできている事例が多く、洪水の危険

性に対する安全対策のため、掘り下げ改修工事が進んでいます。改修されるものは工事に絡めながら文化財情報の取得をおこないます。



図 67 美しい景観をつくり出す溜池



図 68 改修工事が進む天井川

〈参考文献〉

安室知 安井真奈美「溜池と暮らし」『山口県史 資料編 民俗2 暮らしと環境』山口県、2006
釜井俊孝「天井川時代」『埋もれた都の防災学』京都大学学術出版会、2016

③民俗文化財

これまで防府市による文化財調査が十分に行き届いていない分野の一つが民俗文化財です。市域で伝承されてきた様々な技術が失われつつあり、伝えてきた当事者のみならず、地域の記憶からも喪失する危機に面しています。長い時間をかけて防府の環境に適応して育まれてきた技術は地元の自慢できる歴史文化です。今日まで伝えられた文化を何らかの形で継承する手立てを講じるための調査でもあります。

総合的把握調査の一環として取り組んでいるテーマに窯業技術があります。防府の窯業は近世から山口県域の生産量の過半数を占めてきた産業です。戦後の生活様式の変化で需要が激減しても、供給する製品を変えて現在までつないできました。防府の焼物は日常雑器を焼く窯場と萩焼の系譜にある工芸品を焼く窯場とに大別できますが、かつては前者の生産が主体でした。

日常雑器を焼いていた窯場の内、現在も伝統的な技術を継承して蛸壺を生産している工房が末田にあります。末田では、およそ100年前の大正時代に愛知県の常滑から導入して始まった土管の生産が軌道にのり、西日本有数の土管生産地として名を馳せました。蛸壺の生産は土管生産の技術を援用しており、土づくり・成形・乾燥・焼成・製品管理までの一連の工程が工房のある敷地内で完結できる配置で構成されています。工房内にある機械・機具類も50年以上使われ続けているものが多く、土管生産の全盛期さながらの光景が残っています。



図 69 末田の窯業生産工房及び登窯の活動状況

この工場の最大の特徴は現在では珍しくなった登窯で製品を焼成することです。登窯の形式は「連房式登窯」で、規模は全長 14.5 m、幅 7.7 m、高さは 2.2 m あります。焼成窯の一室あたりの容量が 20 m³ 程あり、現存する連房式登窯では全国的にみても大型の部類に入ります。この登窯の最後の修築は平成元年（1989 年）におこなわれましたが、基礎の位置や構造は近代の土管製造時期に構築された登窯を踏襲しています。耐火レンガ等の部材も再利用できるものは活用されており、様々な技術的要素を伝承した貴重な文化財といえます。2016 年 3 月に「末田の窯業生産工房および登窯」として防府市有形民俗文化財に指定されました。

総合的把握調査を契機に、所有者・技術保持者の理解を得て保存・活用の方向に動き出すことができたこれ以上ない成果となりました。

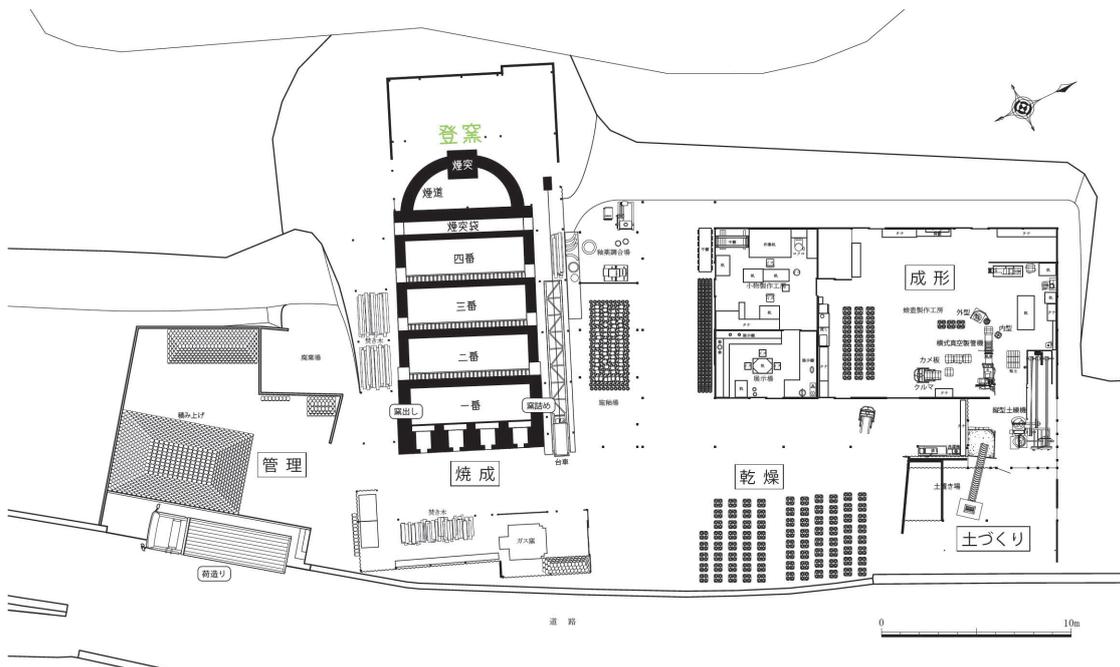


図 70 末田の窯業生産工房及び登窯の空間構成

民俗文化財は現代まで継承された地域文化のあらゆる面が調査の対象となります。地域らしさを伝える「活きた文化財」と表現できますが、社会の動きを反映して絶えず変化していることを念頭に情報や資料を収集する必要があります。時代の流れに沿って緩やかに変化してこそ、真に地域社会の暮らしの中に受け入れられた形で伝えられていく性質の文化財といえます。そのように理解すれば、民俗文化財として把握した時点における状況と年月が経過した後の状況は変化する部分があると考えることが自然です。こうしたことを勘案して、地域の特色をあらゆる民俗文化財は次期計画等で設定するテーマや視点に沿って、将来にわたって記録を集成していくことを前提とした調査を実施していかなければなりません。

民俗文化財の継続的調査が必要な事例のひとつとして、ここでは平成 29 年（2017 年）におこなった市指定無形民俗文化財「笑い講」の催行の状況を記録した成果を挙げ、指定当初の昭和 44 年（1969 年）の記録と比較して、48 年の経過でみられる変化を図示します。

大道地域の小俣集落の年中行事「笑い講」は、その年の頭屋（当屋）から次年の頭屋（来当）へ稲の神である大歳神を渡すトウワタシの前に儀礼的な笑いを講員皆でおこなう神事が奇祭であるとして全国的にも有名になっています。儀礼的な笑いは大道地域の他の集落の大歳祭にも

伝承されていますが、小俣集落は大笑いが強調された形で伝承されていることが特色です。儀礼的な笑いは古い日常の秩序を崩す力があり、新しい日常へ更新するまでの間、神と人が交流し易い状況をつくり出す行為といわれています。

笑い講神事をおこなう配席は代々世襲で決まっていますが、指定当初の時代には小俣八幡宮の産子の戸主である21人の「名」で構成されていましたが[図71]、近年は参加人数が減り、平成29年は15人での催行となりました[図72]。平成30年(2018年)はこれまで当屋の住宅でおこなわれてきた神事が小俣八幡宮拝殿に場所を移しておこなわれました。現代の暮らしにおいて伝統そのままを引き継げない様々な都合があり、時代を反映した変化をもたらしています。こうした変化も記録に留めておけるように継続した調査をおこなうことは民俗文化財として伝える本質の部分を見つめる機会ともなります。市指定の申請書に笑い講の代表者が「穀物守護の神を迎え、これに祈り、災害と戦い、苦しい生産活動に生きぬいた素朴かつ敬虔な農民の切々とした心魂と感動の表れである〈笑いの本質〉が失われないようにしたい。」と綴った当時の地域の想いを振り返ることも今後の活動につながる手がかりとなります。

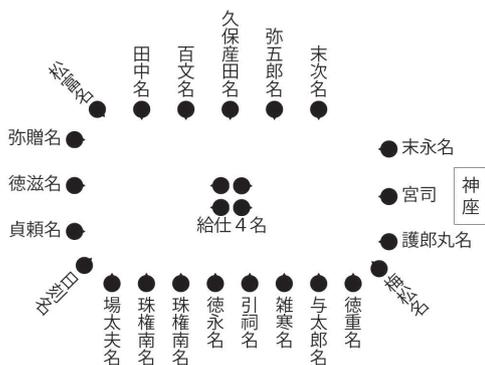


図71 笑い講 配置図(1969年・指定当初)

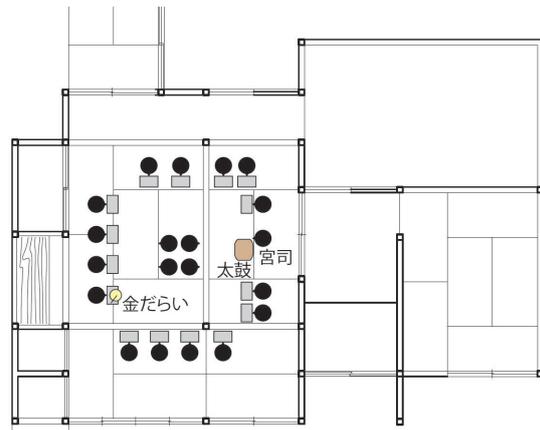


図72 笑い講 配置図(2017年)



図73 指定当初



図74 2017年

〈参考文献〉

徳丸亞木「祭と祈り」『山口県史 資料編 民俗2 暮らしと環境』山口県、2006
徳丸亞木「お笑い講」『山口県の祭り・行事 山口県祭り・行事調査報告書』山口県教育委員会、2008

④文化的景観

文化的景観とは、地域の土地に根差した条件・環境に適応し利用しながら巧みに生活・生業が営まれてきた景観地を文化財として捉えるものです。自然と人間との関係性という総合的な観点を持ち、将来にわたってその関係性を持続させていくねらいがある点に特徴があります。平成16年に文化的景観が保護制度に創設されましたが、文化財体系図〔図33〕にある文化財のうち、防府市でこれまで取り組みのない分野です。

市域に広く分布する花崗岩質の山々は浸食作用で、時には大規模な土石流を引き起こして大きな災害要因になっています。水域の堆積作用の進展が速く、この2000年間で近接する島々を内陸化させてきました。防府平野は河成・海岸段丘、扇状地と三角州、砂丘を内包して構成されています。防府の地に成り立った「まち」は自然環境により遷移する地形形成作用に従って都市空間を拡充し、変遷を経ながら維持してきた歴史的な都市です。周防国府の継承地に「防府市」があり、平野部に都市景観を形成してきた状況を基軸にして取り組むことで、保護していく構成要素を抽出できるものと考えています。

今後、文化的景観に具体的に取り組むための方策として、現況の市街地景観を「中・近世の町割が基盤となって形成される現在の都市景観」と「計画的な市街地整備によって新たに形成されたもの」という要素で、門前町・宿場町・港町と田園都市計画の街区にそれぞれ区分して調査分析を始めることが挙げられます。それら成果を基にして、都市計画部局や各要素を管轄する関連部局と連携し、景観地としての価値を共有する地域住民と協働体制を構築することを目指します。

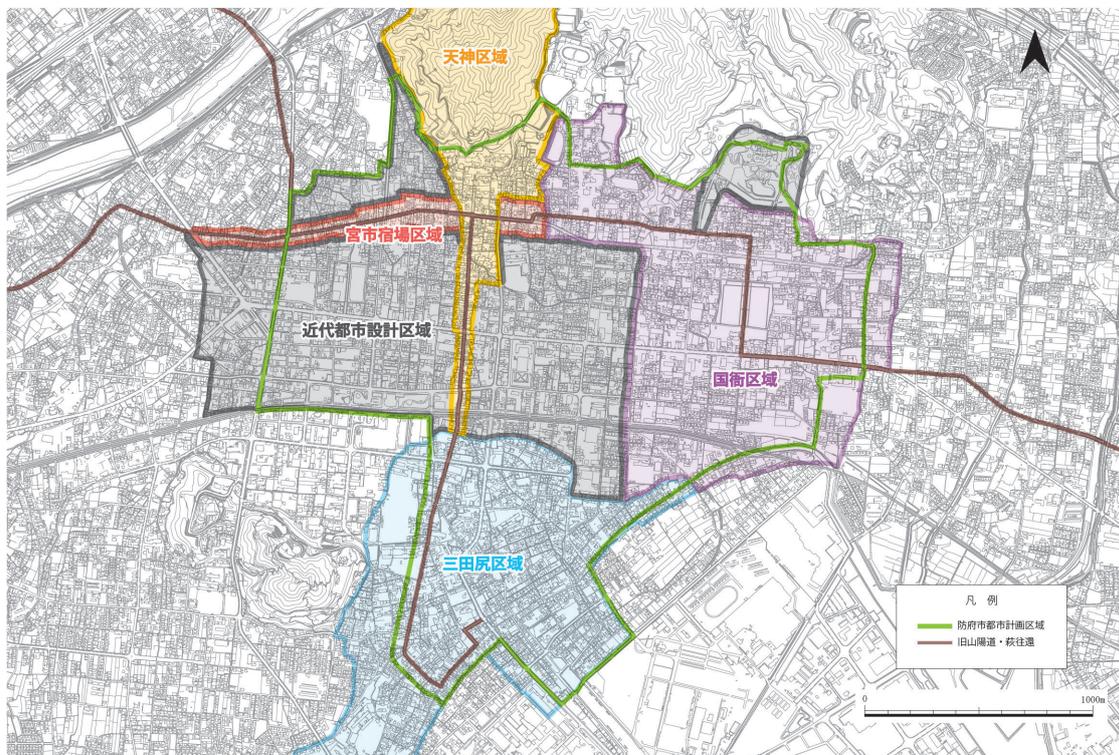


図75 防府の市街地景観における文化的景観を構成する区域

総合的把握調査は、指定・未指定に関わらず市内に分布する膨大な文化財を対象としています。今回の調査で把握できる文化財の範囲には限りがあったことから、今後の追加調査で文化財リストの完成を目指していきます。